

帝国書院の新しい教科書の情報が詰まった  
**中学校 社会科Webのご案内**

中学校 社会科  
**Webも**  
 ご覧ください



令和3年度版  
**内容解説資料**

本資料は、  
 一般社団法人教科書協会  
 「教科書発行者行動規範」に  
 則っております。

中学校 社会科Webは  
 こちら



※左の二次元コードのほか、弊社ホームページならびに  
 下記URLからご覧いただけます。

**帝国書院** 検索

<https://www.teikokushoin.co.jp/jhs2020/index.html>



令和3年度版  
**教科書のご案内**  
 おもな内容

- 内容解説資料 (PDF/電子ブック)
- 編修趣意書 (PDF)
- 検討の観点から見た内容の特色 (PDF/Excel)
- 5大特色の紹介
- 二次元コードの内容紹介

など

デジタル教科書・  
 教材のご案内  
 おもな内容

- Web体験版
- 特色紹介 (動画)
- デジタル教科書・  
 教材パンフレット (PDF)
- ラインナップ紹介
- 動作環境

など

サポート体制のご案内  
 おもな内容

- 教師用指導書のご案内 (PDF)
- 年間指導計画作成資料 (Excel)
- 新学習指導要領関連資料
- 学習評価に関する資料
- 特別支援教育対応地図帳

など

※上記内容は掲載される時期が異なる場合があります。また、一部内容が変わる場合があります。  
 ※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

令和3年度版 **内容解説資料** 部分サンプル

本資料は、環境にやさしい再生紙・植物油インキを使用しています。  
 また、カラーバリアフリーを含む、ユニバーサルデザインに配慮しています。  
 本書の無断転載・複製を禁じます。

**帝国書院**

〒101-0051  
 東京都千代田区神田神保町3-29  
 TEL 03-3262-0831  
 URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>

社会科

中学生の  
**歴史**

日本の歩みと世界の動き

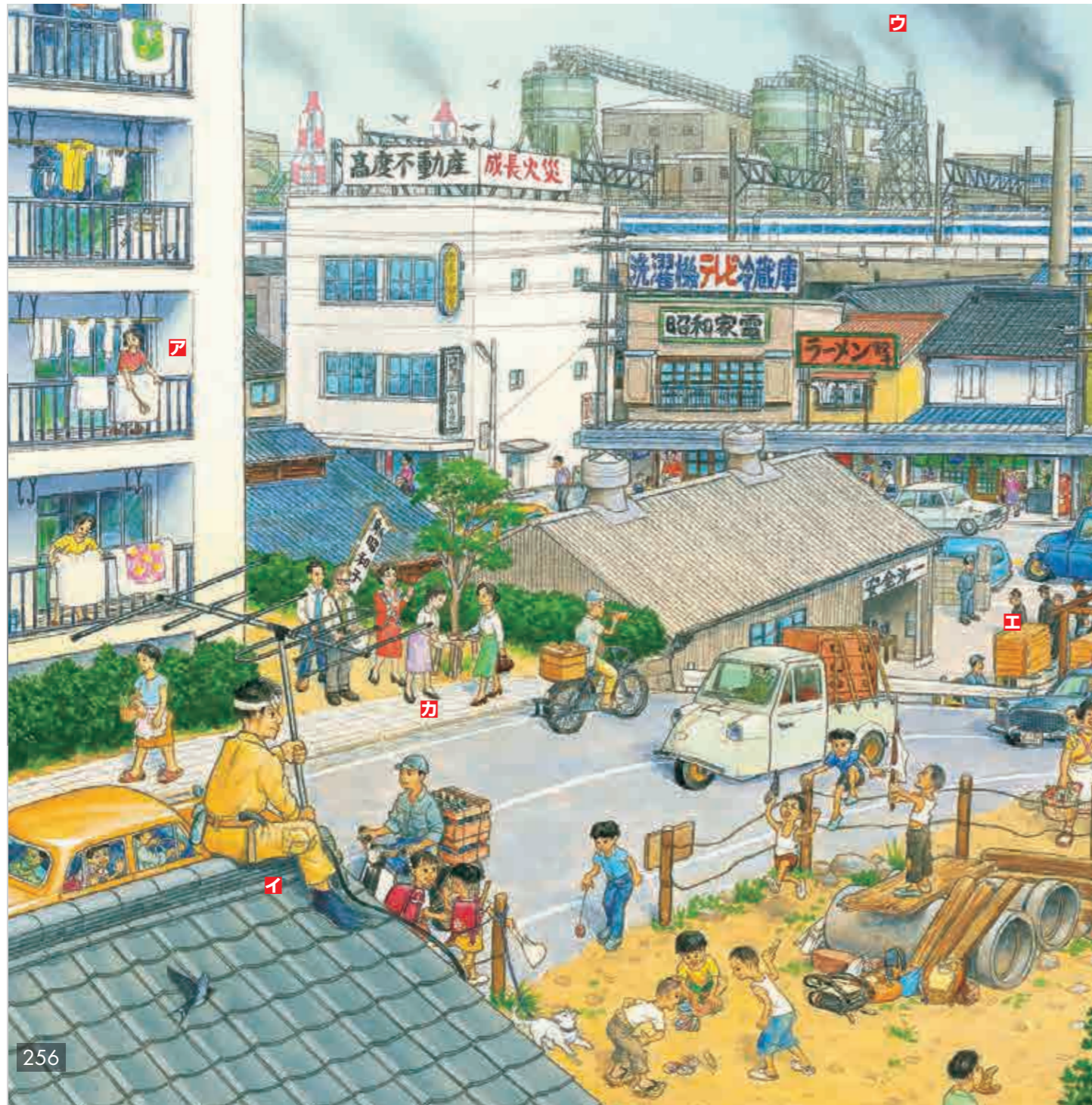
日本の歴史を  
 さまざまな視点から  
 考えられる教科書



帝国書院

為政者のみならず、さまざま  
つくりあげてきた歴史を、

な人々が  
生き生きと描いた教科書



▲p.256-257 タイムトラベル⑫ 高度経済成長期を眺めてみよう(1960~70年ごろのある場面)【原寸大】

人々のたくま

しい姿が見える, 時代の息吹が聞こえる

# 本資料のもくじ



■p.48-49 タイムトラベル④ 平安時代を眺めてみよう(11～12世紀ごろのある場面)

## 『社会科 中学生の歴史』に込めた想い

多様な人々の歴史から未来を考えていける教科書をめざして

帝国書院 編集部

中学校での歴史的分野の学習は、考える歴史、謎を解く歴史です。なぜそのような事件が起こったのか？ どうしてそんな結末になったのか？ 多くの疑問をもち、よく調べ、じっくりと考える必要があります。

この教科書では、時代をイメージできるイラストを用意し、為政者から庶民にいたるまでの『歴史をつくってきた人々の姿』がよくわかるようにしています。また、資料を充実させ、さまざまな人の立場や、世界のなかでの日本の歴史など、出来事の起こった背景を掘り下げやすいようにしています。

歴史の舞台に立って、人々が置かれた多様な状況や願いへの理解を深めていけば、現代の社会についても、多様性をふまえた発展や成長を考えていけるようになるでしょう。この教科書が、中学生の皆さんにとって、未来を考えていける教科書になることを願っています。

### 特色 ① 時代の特色をつかめるタイムトラベル 5

時代をイメージできるイラスト	5
本文との関連	9
「歴史的な見方・考え方」を働かせて特色をつかめる	11
掲載ページ一覧	13

### 特色 ② 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 15

文化史—伝統文化への関心を高める大迫力の資料	15
文化史—文化が生まれた社会的背景がわかる本文	17
地域史—中央の歴史だけでなく地域史を重視	19
地域史—琉球とアイヌの人々の歴史を重視	21
歴史の理解を深めるさまざまな視点	23

### 特色 ③ 深い学びにつながる「問い」 25

見通し・振り返り学習がしやすい構造 ①章・節の構造	25
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ②見開きの構造	27
見通し・振り返り学習がしやすい構造 ③「章の学習を振り返ろう」	29
異なる意見や立場から歴史を考察する特設ページ	31

### 特色 ④ 日本の歴史がよりよくわかる世界の歴史 33

日本と世界の歴史の関わりが一望できるイラスト世界地図	33
日本と世界の歴史の関わりがよくわかる本文	35

### 特色 ⑤ 知識・技能を確実に習得する工夫 37

知識の習得を助ける工夫	37
技能の習得を助ける工夫	39

#### 共通の特色／サポート／特色一覧

社会科3分野 共通の特色	①3分野の関連を図った10のポイント	41
	②二次元コード コンテンツ	43
	③特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮	45
教科書指導の サポート	①デジタル教科書・教材	47
	②教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など	49
『社会科中学生の 歴史』の特色一覧	①教育基本法との対応	51
	②検討の観点から見た内容の特色	53
『社会科 中学生の歴史』の全体構成(もくじ)		57
著者を代表して／本書の著作関係者		58

※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

# 時代の特色をつかめるタイムトラベル

## 時代をイメージできるイラスト

その時代の社会の様子を、絵画や写真、遺構などの歴史的資料に基づいて描いた「タイムトラベル」を設けています。イラストで時代のイメージを視覚的に捉えることができます。

原寸大



### むろまち 室町時代を眺めてみよう

(15世紀ごろのある場面)

鎌倉時代 p.58~59  
安土桃山時代 p.102~103



南北朝時代	室町時代	戦国時代	
1338 足利尊氏が征夷大将軍となる →1 足利尊氏	○足利義満が金閣を造らせる あしかがよしみつ →2 足利義満	1467 応仁の乱が起る (~77) ○足利義政が銀閣を造らせる あしかがよしまさ →3 足利義政	○雪舟が水墨画で活躍する せつしゅう →4 雪舟



室町時代といわれる時代にやってきました。ここは大阪湾に面するある港町です。交易が盛んな都市のためか、各地からやってきた人々がさまざまなやりとりをしています。

前の時代と比べて特色を考えよう  
鎌倉時代と比べると、どのような点が変化し、どのような共通点があるでしょうか。例えば、場面①のように武器を持っている人々に注目して、確認してみよう。

- 次の場面を探してみよう！ 次の場面は、①~⑥のどれに当たるか、( )に記号を入れてみましょう。
- ①、町の入り口で、多くの人々が集団で訴えを起こしています。( )
  - ②、町の代表者が、お茶を飲みながら話し合いをしています。( )
  - ③、馬が、荷物を背に乗せて運んでいます。( )
  - ④、貨幣を使って、買い物をしています。( )
  - ⑤、中国へ向かう大きな船が、港に停泊しています。( )
  - ⑥、牛の力を使って、農作業を行っています。( )
- ヒント ①→p.84 ②→p.85 ③→p.83 ④→p.83 ⑤→p.76 ⑥→p.82



# 時代の特色をつかめるタイムトラベル

## 時代をイメージできるイラスト

**「さくいんグリッド」**

▶ 地図帳のさくいん記号のように、記号を使って位置を確認できます。

**「次の場面を探してみよう！」**

▶ その時代の特色を表す重要な場面を探す作業を提示しています。  
▶ 場面を焦点化することで、時代の特色をつかむ問いの設定につなげることができます。

**時代を概観する解説**

▶ 時代を概観するとともに、イラストの着眼点やポイントを示しています。

**「小学校で学んだ主な出来事」**

▶ 年表で小学校の学習を振り返ることで、スムーズに時代の学習に入ることができます。

**「前の時代と比べて特色を考えよう」**

▶ 前の時代との違いに気付くことで、時代の特色を考えることができます。



**室町時代を眺めてみよう**  
(15世紀ごろの場面)

鎌倉時代 p.58~59  
安土桃山時代 p.102~103

**次の場面を探してみよう!** 次の場面は、**ア**~**フ**のどれに当たるか、( )に記号を入れてみましょう。

①. 町の入り口で、多くの人々が集団で訴えを起こしています。( )	④. 貨幣を使って、買い物をしています。( )
②. 町の代表者が、お茶を飲みながら話し合いをしています。( )	⑤. 中国へ向かう大きな船が、港に停泊しています。( )
③. 馬が、荷物を背に乗せて運んでいます。( )	⑥. 牛の力を使って、農作業を行っています。( )

**ヒント** ①→p.84 ②→p.85 ③→p.83 ④→p.83 ⑤→p.76 ⑥→p.82

南北朝時代	室町時代	戦国時代
1338 足利尊氏が 正徳大將軍となる →1 足利尊氏	○足利義満が 金閣を造らせる →2 足利義満	1467 応仁の乱が 起こる (~77) ○足利義政が 銀閣を造らせる →3 足利義政
		○雪舟が 水墨画で 活躍する →4 雪舟
		○一揆が 盛んに起 こる

**前の時代と比べて特色を考えよう**

鎌倉時代と比べると、どのような点が変化し、どのような共通点があるでしょうか。例えば、場面**ア**のように武器を持っている人々に注目して、確認してみよう。

室町時代といわれる時代にやってきました。ここは大阪湾に面するある港町です。交易が盛んな都市のためか、各地からやってきた人々がさまざまなやりとりをしています。

A B C D E F



「前の時代と比べて特色を考えよう」の活用については本資料p.11-12

# 特色 1 時代の特色をつかめるタイムトラベル 本文との関連

**本文との関連**

▶タイムトラベルのイラストは本文ページの学習と関連しています。各時代の政治・経済・文化の内容について、文章だけではイメージしづらいことも、イラストで視覚的に確認することで理解が深まります。

## 単元の冒頭

**タイムトラベル⑧ 江戸時代を眺めてみよう**  
(17~18世紀ごろのある場面)

次場面を探してみよう！ 次の場面は、①~⑥のどれに当たるか、( )に記号を入れてみよう。

① 江戸から領地へ戻る武士の一行が、街道を歩いています。 ( )  
 ② 百姓たちが決められた量の米を、俵に詰めています。 ( )  
 ③ さまざまな工夫された農具を使って、稲を脱穀しています。 ( )

④ 海岸の近くに、綿花の畑が広がっています。 ( )  
 ⑤ 百姓がお金を払って、新しいくわを買っています。 ( )  
 ⑥ 旅人が手にした案内書を見せて、道を聞いています。 ( )

ヒント ①→p.113, 128 ②→p.124 ③→p.126 ④→p.127, 135 ⑤→p.126, 135 ⑥→p.140

次場面を探してみよう！ 次の場面は、①~⑥のどれに当たるか、( )に記号を入れてみよう。

① 江戸から領地へ戻る武士の一行が、街道を歩いています。 ( )  
 ② 百姓たちが決められた量の米を、俵に詰めています。 ( )  
 ③ さまざまな工夫された農具を使って、稲を脱穀しています。 ( )

④ 海岸の近くに、綿花の畑が広がっています。 ( )  
 ⑤ 百姓がお金を払って、新しいくわを買っています。 ( )  
 ⑥ 旅人が手にした案内書を見せて、道を聞いています。 ( )

ヒント ①→p.113, 128 ②→p.124 ③→p.126 ④→p.127, 135 ⑤→p.126, 135 ⑥→p.140

## 本文ページの学習

## 経済

**漁業・鉱業・林業の発達** 漁業の技術も発達し、海産物も特産物として各地で取り引きされました。畿内の先進的な漁業技術が広まり、釣りによる漁だけでなく、改良が進んだ網による漁が各地で行われました。また、九十九里浜(千葉県)で取れたいわしは、干鰯に加工され、肥料として木綿の栽培地を中心に各地に売られました。紀伊(和歌山県)や土佐(高知県)では捕鯨やかつお漁が行われ、塩も赤穂(兵庫県)など瀬戸内で大規模に生産されました。p.123F1

鉱業では、採掘や精錬技術が進歩したことで、佐渡金山(新潟) p.127



**交通の整備** 幕府は、18世紀初めごろまでに交通の整備を固めました。陸上交通では、大名が参勤交代をすることなどから、江戸の日本橋を起点に五街道が定められ、街道の途中には宿場が置かれました。地方の街道もしだいに整備され、飛脚による通信も発達し、宿場町や門前町も発達しました。p.122C2

p.128



## 政治

**身分制と武士** 幕府は、社会の安定化を図るため、豊臣秀吉のときに行われた兵農分離をさらに進め、17~18世紀にかけて、武士と百姓・町人の身分を区別するしくみを固めていきました。この過程で、百姓や町人に組み入れられなかった一部の人々は、差別されることになりました。

この身分制の下で、政治を行う支配者の身分とされた武士は、主君に仕え、軍事や行政に関わる義務を負いました。一方で、名字(姓)を名乗ることや、刀を差すこと(帯刀)などの特権を持ちました。p.123F2

武士は幕府や藩の役職に就いて、幕府や藩から石高に応じて、領地や米が支給されました。p.106

p.124



## 文化

喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆとりが生まれた百姓も寺社参詣などの旅に出かけるようになり、葛飾北斎や歌川(安藤)広重は街道などの風景画を描いて人々の旅心をかきたてました。また、本も数多く印刷され始め、旅先での出来事や名所を描いた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、旅の案内書として評判となりました。曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などの長編小説も多くの人々に読まれました。こうした印刷物や旅先での人々の交流によって、江戸の文化は地方にも伝わっていきました。p.123E1

p.140



## 参照記号

▶本文の学習でタイムトラベルの場面と関連する内容には、イラストの「さくいんグリッド」(本資料 p.7-8)を示す赤色の参照記号を付けています。

## 「次の場面を探してみよう！」の確認

▶「次の場面を探してみよう！」(本資料 p.7-8)で示された場面を本文で確認することで、時代の特色をイラストと本文からつかむことができます。

特色 1

# 時代の特色をつかめるタイムトラベル

## 「歴史的な見方・考え方」を働かせて特色をつかめる

「歴史的な見方・考え方」を働かせる活用

▶「二つの時代を(前の時代と)比べて特色を考えよう」で提示されている視点などを参考にイラストを見比べることで、「歴史的な見方・考え方」を働かせて時代の特色をつかむことができます。

二つの時代を比べて特色を考えよう

二つの時代を比べると、どのような点が変わり、どのような共通点があるでしょうか。例えば、場面カのように弥生時代に新しく出来たものを挙げてみよう。

**ポイント**

教科書p.12では、「歴史的な見方・考え方」について丁寧に解説しています。

**歴史的な見方・考え方を働かせよう**

社会の出来事に対して、歴史的な見方・考え方を働かせることで、謎を見つけることができます。これからの学習では、以下の四つの歴史的な見方・考え方を働かせて謎を見つけ、その謎を解き明かしていきましょう。そうすることで、社会の出来事を多面的・多角的に考える力を身に付けることができます。

**推移**  
この事件は、どうして起きたのだろう。きっかけは何だろう。

**相互の関連**  
他の船よりも大きくて形が違う船があるね。この事件とどのような関連があるのかな。

**時期や年代**  
この図鑑の名前にある寛永十五年はいつかな。

**比較**  
この事件の前と後では、何か変化があったのかな。

p.12

### 縄文時代

異なる点

狩り・採集

A3

共通点

たて穴住居

B2

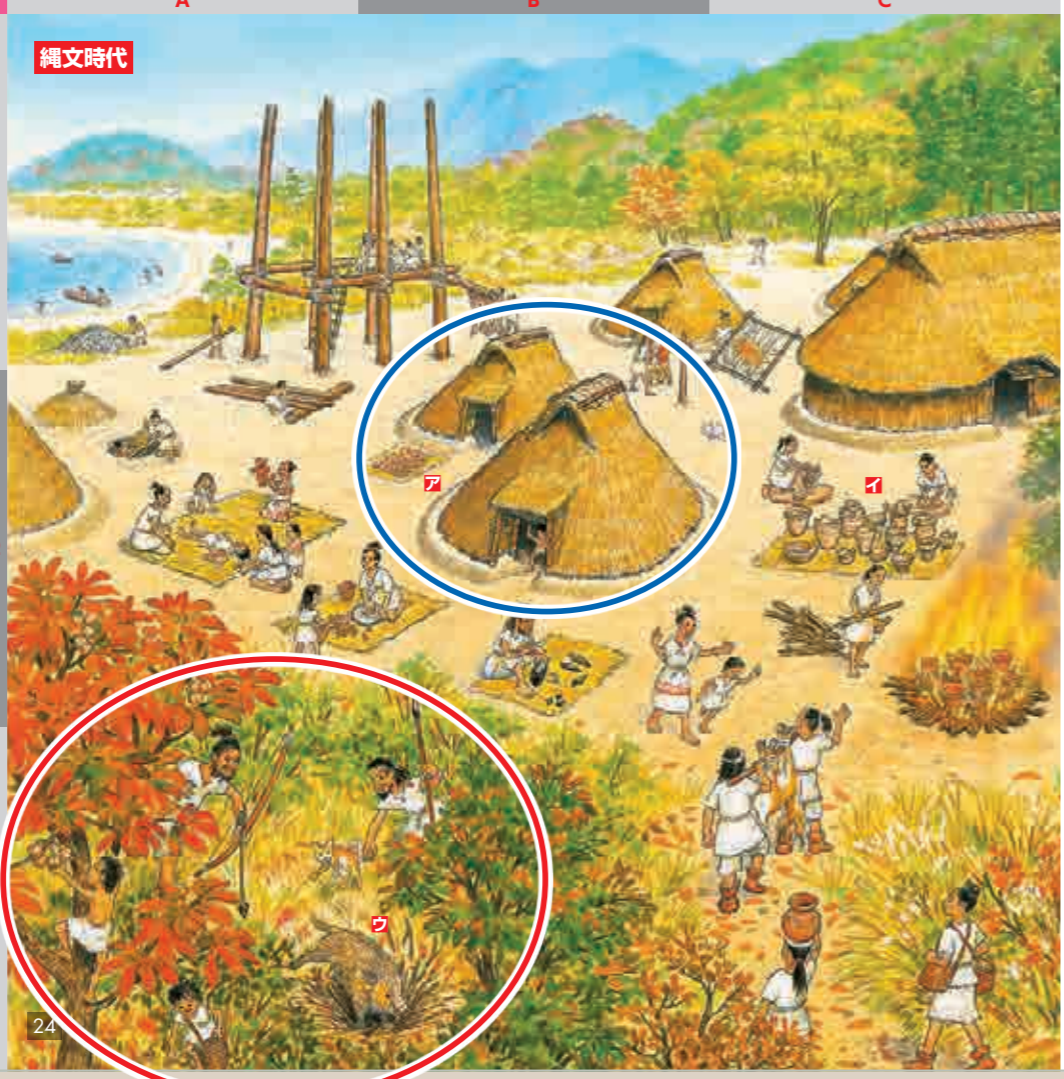
**タイムトラベル02**

縄文時代を眺めてみよう (紀元前25～前20世紀ごろのある場面)

次の場面を探してみよう！ 次の場面は、ア～カのどれに当たるか、( )に記号を入れてみよう。

①、穴を掘り、その上に屋根を付けた住居に住んでいます。 ( ) ④、落とし穴を使って、イノシシを捕まえています。 ( )  
 ②、床を高くした倉庫に、収穫した米を運んでいます。 ( ) ⑤、鏡を用いて、まじないを行っています。 ( )  
 ③、集落の周りには、柵と濠がめぐらされています。 ( ) ⑥、縄などで、土で出来た器に文様を付けています。 ( )

ヒント ①→p.26 ②→p.27 ③→p.28 ④→p.26 ⑤→p.28 ⑥→p.26



p.24-25

**弥生時代を眺めてみよう** (紀元2～3世紀ごろのある場面)

縄文時代	弥生時代	古墳時代
約1万年前 日本列島が大陸から切り離される	紀元前3世紀 稲作が伝わる	5世紀 ヤマト王権が勢力を広げる
	卑弥呼が倭国の女王となる	卑弥呼

私たちは先史時代の日本列島にいます。左は、縄文時代といわれる時代で、東北地方のある集落の様子です。右は、弥生時代といわれる時代で、九州地方のある集落の様子です。

二つの時代を比べて特色を考えよう

二つの時代を比べると、どのような点が変わり、どのような共通点があるでしょうか。例えば、場面カのように弥生時代に新しく出来たものを挙げてみよう。



### 弥生時代

異なる点

稲作

F3

高床倉庫

F2

共通点

たて穴住居

E2



p.24-25

# 時代の特色をつかめるタイムトラベル 掲載ページ一覧

平安時代・第二次世界大戦期のイラストを新設し、古代から現代まで  
主要な12の時代がそろいました。  
各時代の政治・経済・文化を描いたイラストで、時代の特色がつかめます。

縄文時代・弥生時代 (p.24-25)



- 政治: たて穴住居(定住) 環濠集落(クニ)
- 経済: 狩り 高床倉庫(稲作)
- 文化: 縄文土器 まじない(青銅器)

奈良時代 (p.34-35)



- 政治: 労役 庸・調の運搬
- 経済: 官道の整備 口分田の耕作
- 文化: 国分寺 僧侶

平安時代 (p.48-49)



- 政治: 貴族 碁盤の目状の都 農民と年貢
- 経済: 品物の取引
- 文化: 浄土信仰 年中行事

鎌倉時代 (p.58-59)



- 政治: 農村の自衛 武士の館
- 経済: 職人 水車(灌漑) 市
- 文化: 民への説法(鎌倉仏教)

室町時代 (p.80-81)



- 政治: 一揆 町衆の寄合
- 経済: 日明貿易 馬借 明銭の流通 牛耕
- 文化: 茶の湯・生け花・畳

安土桃山時代 (p.102-103)



- 政治: 検地 刀狩
- 経済: 城下町 ますの統一
- 文化: 南蛮人 天守

江戸時代 (p.122-123)



- 政治: 参勤交代 百姓と年貢
- 経済: 農具の発達 綿花栽培(商品作物) 貨幣の普及
- 文化: 識字率の高さ

明治時代 (p.168-169)



- 政治: 徴兵令 演説会
- 経済: 鉄道輸送 製糸工場
- 文化: 学制 西洋建築の教会

大正～昭和初期 (p.218-219)



- 政治: 労働争議 男子普通選挙
- 経済: 工業の発展 都市交通 金融恐慌
- 文化: 映画(大衆文化)

第二次世界大戦期 (p.242-243)



- 政治: 戦地への出征 国民学校
- 経済: 配給制 戦時下の交通 物資の献納
- 文化: マスメディア(新聞社)

高度経済成長期 (p.256-257)



- 政治: 女性の選挙権・参政権
- 経済: 重化学工業と公害 集団就職 東海道新幹線の開通と東京オリンピックの開催
- 文化: 団地 テレビの普及

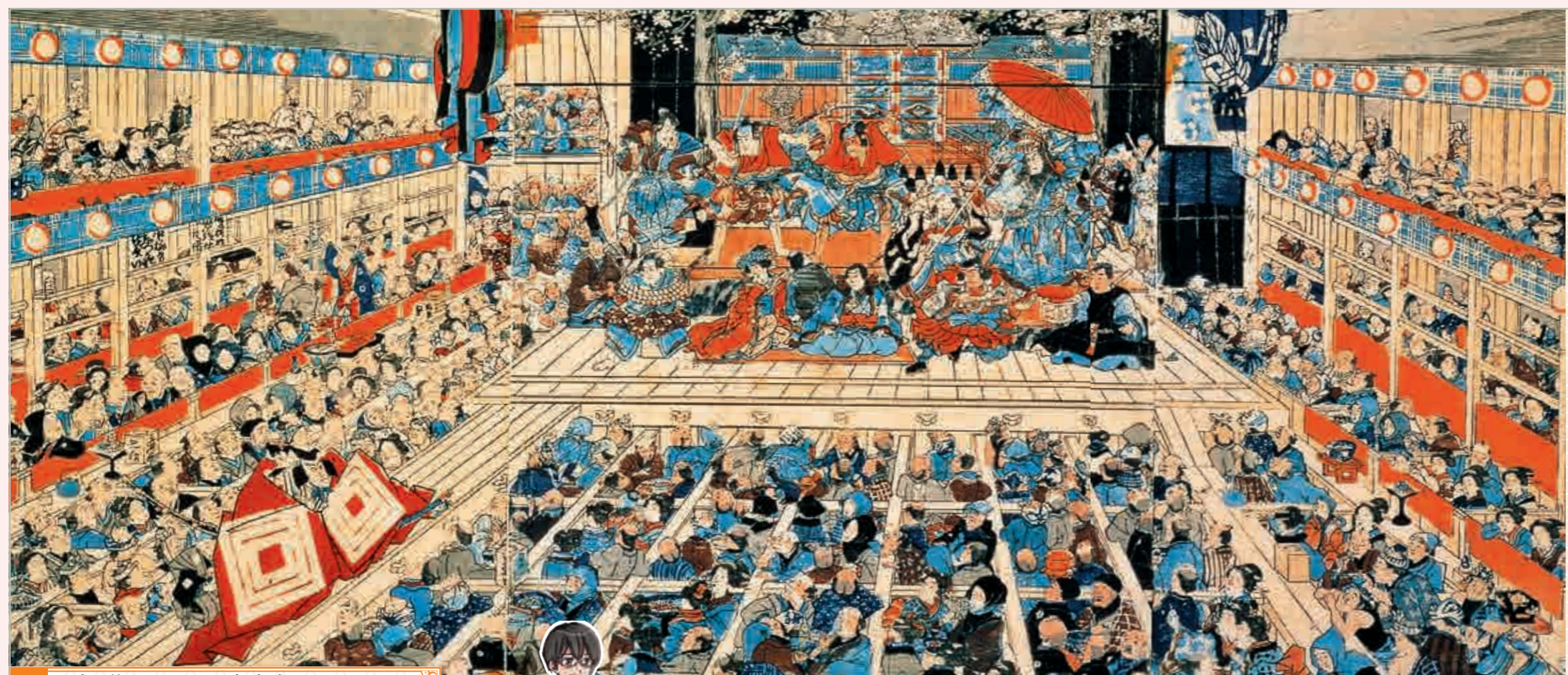




# 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 文化史—伝統文化への関心を高める大迫力の資料

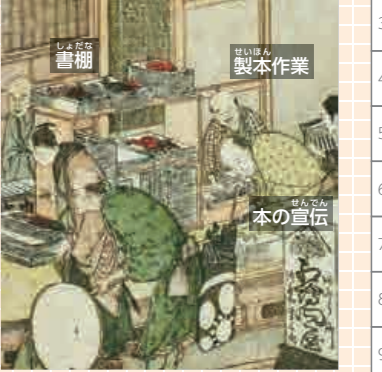
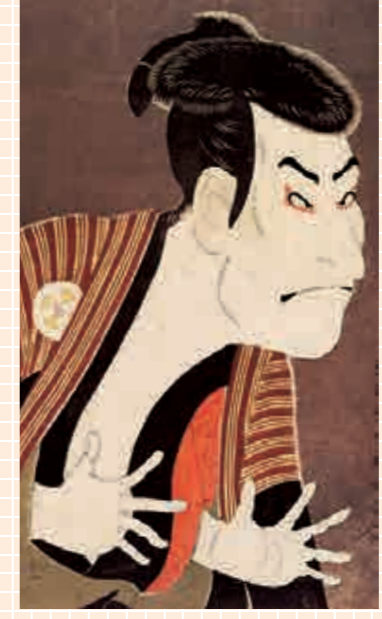
原寸大

文化史のページでは、各時代の代表的な文化を大きな図版で紹介し、伝統文化への関心を高められます。



歌舞伎の劇場 常設の芝居小屋が設けられ、質を高めるさまざまな工夫と演出が行われたことで、歌舞伎に対する人気はますます高まっていきました。観客は、一日中、飲食や会話をしながら歌舞伎を楽しみました。(三代目歌川豊国作『踊り形江戸絵巻』東京都 江戸東京博物館蔵)

東洲斎写楽が描いた歌舞伎の役者絵(重要文化財 東京国立博物館蔵)



江戸の本屋の様子 印刷や製本の技術が発達したことで、浮世絵や長編小説などの多くの出版物が発行され、ベストセラーも生まれました。安い値段で本を貸す店も増え、庶民に至るまで広く読まれるようになりました。(京都外国語大学附属図書館蔵)

## 江戸っ子を夢中にさせた 娯楽と浮世絵



江戸の人々は、どのようなことに夢中になっていたのかな。

### 歴史プラス 庶民の娯楽として根づいた大相撲

相撲は、初めは朝廷の年中行事でしたが、江戸時代になると、大名がお抱えの力士たちを競わせるようになりました。その後、土俵が造られ、寄り切りなどの技が生まれたことで、相撲を見る楽しみは増加し、庶民の娯楽として人気を得ました。また、相撲を職業とする人々も現れ、信濃(長野県)出身で松江藩(島根県)お抱えの雷電など、人気力士も誕生しました。

力士の土俵入り(歌川国芳作『勳進大相撲土俵入之図』東京都立中央図書館特別文庫室蔵)



隅田川の花火大会 江戸時代になって合戦がなくなると、火薬の技術が花火に生かされ、観賞用の花火が各地へと広まりました。享保の飢きんの翌年には、死者の霊を慰める祭として、隅田川で花火が打ち上げられ、江戸の夏の名物となりました。火除地から盛り場に発展した両国橋の周りは、たくさんの人々にぎわいました。(歌川国芳作『江戸両国橋夕涼大花火之図』江戸東京博物館蔵)

## 3 江戸の庶民が担った化政文化

学習課題 江戸時代後半には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。

庶民による化政文化 江戸に経済の中心を移す田沼意次による政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鑄によって多くのお金が回り、大飢きんも起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。火事が多い江戸に設けられた火除地は、人々が集まる盛り場となりました。19世紀初めの文化・文政期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を化政文化といいます。

歌舞伎はさらに人気を集め、相撲や落語を楽しむ寄席が庶民にも広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺してよむ川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現した与謝蕪村や農民の感情をくみ取った小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵における錦絵とよばれる多色刷りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画

狂歌  
白河の清きに魚も住みかねて  
もこのにのりの田沼恋しき

川柳  
これ小判だった一晩いってくれろ  
孝行のしたい時分に親はなし

俳諧  
春の海ひねもすのたりのたりかな  
菜の花や月は東に日は西に  
行く春や重たき琵琶の抱きしころ

「白河」は、元白河藩主(福島県)であった松平定信を、「田沼」は、田沼意次のことを指しています。

与謝蕪村  
われときて遊べや親のなはずめ  
雪とけて村いっばいの子どもかな

与謝蕪村(1716~83)

# 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 文化史—文化が生まれた社会的背景がわかる本文

## 文化の担い手がわかる工夫

▶本文やタイトルで文化のおもな担い手がわかるようになっています。このため、その時代の文化にどのような特色があったのかがより理解しやすくなっています。

ページ	文化	おもな担い手
p.42-47	天平文化	天皇・貴族
p.52-55	国風文化	貴族
p.66-69	鎌倉文化	武士
p.88-91	室町文化	武家・公家・庶民
p.108-111	桃山文化	戦国大名・豪商

ページ	文化	おもな担い手
p.132-133	元禄文化	町人
p.138-141	化政文化	町人・百姓(庶民)
p.204-207	明治の文化	政府
p.224-227	大正・昭和初期の文化	大衆
p.274-277	戦後の文化	大衆

## 社会的背景がわかる本文

▶なぜその時代にそのような文化が生まれたのか、因果関係を明確にして社会的背景がわかるようになっています。



**江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵**

江戸の人々は、どのようなことに夢中になっていたのかな。

**歴史** 庶民の娯楽として根づいた大相撲

相撲は、初めは朝廷の年中行事でしたが、江戸時代になると、大名が抱えの力士たを争わせるようになり、その後の土俵が盛り上がり、庶民の娯楽として人気を博しました。また、相撲を職業とする人々も現れ、庶民(民間)出身で松江藩(由緒)お抱えの雷蔵など、人気力士も誕生しました。

1 力士の土俵入り(歌川国房作「勳業大相撲土俵入り図」東京国立中央図書館特別文庫蔵)

2 陣田川の花火大会 江戸時代になって合戦がなくなるなど、火薬の技術が空気に生かされ、祝賀用の花火が各地へと広まりました。享保の前身の翌年には、死者の霊を慰める祭として、陣田川で花火が打ち上げられ、江戸の夏の名物となりました。火葬地から盛り場に発展した両国橋の隅には、たくさんの人々にぎわいました。(歌川国房作「江戸両国橋夕涼花火大会図」江戸東京博物館蔵)

▶p.138-139



**3 江戸の庶民が担った化政文化**

江戸時代後半には、どのような特色を持った文化が展開したのでしょうか。

**庶民による化政文化** 江戸に経済の中心を移す田沼意次による政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鋳によって多くのお金が回り、大飢きも起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。火事が多い江戸に設けられた火除地は、人々が集まる盛り場となりました。19世紀初めの文化・文政期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を化政文化といいます。

歌舞伎はさらに人気を集め、相撲や落語を楽しむ庶民にも広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺したよむ川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現した与謝蕪村や農民の感情をくみ取った小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵における錦絵とよばれる多色刷りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画

1 歌舞伎の演目 常設の芝居小屋が設けられ、質を高めるさまざまな演出が行われたことで、歌舞伎に対する人気はますます高まりました。観客は、一日中、飲食や会話をしながら歌舞伎を楽しみました。(三村歌川国房作「陣田川(江戸)地獄」東京国立中央図書館蔵)

2 田沼意次の描いた歌舞伎役者 田沼意次(徳川幕府)が描いた歌舞伎役者(田沼意次)の肖像画(東京国立博物館蔵)

3 江戸の本陣の様子 印刷や写楽の技術が発達したことで、浮世絵の長巻小巻などの多くの出版物が作られ、六ツトセラも生まれました。浮世絵の発展を促すとともに、新に送るまで広く読まれるようになりました。(京都府立総合資料館蔵)

4 与謝蕪村(1716-83)

庶民による化政文化 江戸に経済の中心を移す田沼意次による政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鋳によって多くのお金が回り、大飢きも起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。火事が多い江戸に設けられた火除地は、

化政文化が生まれた背景について、社会の安定と経済の発達により豊かになった庶民の存在があったことがわかります。



**歴史** 世界に驚きを与えた浮世絵

江戸の一般の人々やその生活風景を題材として、多色刷りで印刷された浮世絵の描く世界は、当時のヨーロッパでは例のないものでした。さらに、日本の浮世絵の天竺な構図やコントラストを好むようにする色使いは、ゴッホやモネなどのヨーロッパの絵画にも大きな影響を与え、「ジャポニスム」ともよばれました。

1 伊勢参り 庶民の旅は原則禁止されていたが、寺社の参詣という形で旅をすることができました。伊勢参りは一生に一度は行きたい庶民の憧れでした。(歌川国房作「伊勢参り 宮田の夜」神奈川国立歴史博物館蔵)

2 葛飾北斎が描いた風景画 北斎は、大胆な構図と色使いで、さまざまな富士山の姿を描きました。(富原三十六景 神奈川博物館蔵)

3 葛飾川(安藤)広重が描いた浮世絵(東京国立博物館蔵)

4 ゴッホが描いた油絵(カンダゴッホ美術館蔵)

**町人だけでなく、生活にゆとりが生まれた百姓も寺社参詣などの旅に出かけるようになり、葛飾北斎や歌川(安藤)広重は街道などの風景画を描いて人々の旅心をかきたてました。また、本も数多く印刷され始め、旅先での出来事や名所を描いた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、旅の案内書として評判となりました。曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などの長編小説も多くの人々に読まれました。こうした印刷物や旅先での人々の交流によって、江戸の文化は地方にも伝わっていきました。**

**国学と蘭学** 武士の子供として蘭子が奨励されていきましたが、士族に仏教や儒教が伝わる前の日本古来の精神に学ぼうとする国学が盛んになり、本居宣長の『古事記伝』を書いて国学を大成させました。国学は当時の社会を批判する考えや天皇を尊ぶ考え(尊王)に結び付き、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えました。

一方、徳川吉宗が洋書関連の輸入禁止を緩和したことで、西洋の学問を研究する蘭学が盛んになりました。江戸では医師の杉田玄白や前野良沢らがオランダ語の人体解剖書を翻訳して『解体新書』を出版し、平賀源内は日本で初めて発電機や電燈計を作りました。上方の

1 杉田玄白(1733-1817)(東京都 早稲田大学蔵)

2 小學校・地理・公民科の関連 歌川(安藤)広重(小)、本居宣長(小)、杉田玄白(小)、解体新書(小)、伊能忠敬(小)、寺子屋(小)

▶p.140-141

を描いた喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆとりが生まれた百姓も寺社参詣などの旅に出かけるようになり、葛飾北斎や歌川(安藤)広重は街道などの風景画を描いて人々の旅心をかきたてました。また、本も数多く印刷され始め、旅先での出来事や名所を描いた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、旅の案内書として評判となりました。曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などの長編小説も多くの人々に読まれました。こうした印刷物や旅先での人々の交流によって、江戸の文化は地方にも伝わっていきました。

文化が地方に伝わった背景について、旅の流行や印刷技術の発達があったことがわかります。



**伊能忠敬(1745-1818)** 忠敬は、幕府の伊能家で商人として成功し、隠居した後、51歳で江戸に出て天文学を学びました。56歳のときに幕府の許可を得て測量の旅に出発し、約17年かけて、北は蝦夷地から南は九州の鹿児島まで、各地を測量して歩きました。(千葉県教育委員会蔵)

**寺子屋** 僧侶や商人が先生になり、町人や百姓の子供にも、魚人ごとの算盤を教えていました。8-9歳ごろから通いました。(徳島県山形第一陣田川 重要文化財 徳島県立博物館蔵)

**寺子屋で使われた女性用教科書** 寺子屋では、「読み・書き・そろばん」以外にも、礼儀作法や裁縫など日常生活に役立つ知識を学習しました。(徳島県立博物館蔵)

**伊能忠敬が作成した地図** その正確さにより、明治以降においても、この地図に基づいて地図が作成されました。北海道の作成には島崎藤村(-p.160)も貢献しています。

学者たちは私塾を作って町人や百姓を交えて学び、長崎ではオランダ商館の医師シーボルトが蘭学者や医学者を育てました。西洋の知識は測量術を進歩させ、伊能忠敬はその技術を基に正確な日本地図を作成しました。測量術や天文学が急速に進歩した背景には、外国船の来航により日本の地図を正確に作る必要があったことや、測量の基礎技術である和算が広まったこともありました。

**広がる教育** 19世紀後半、町人や百姓の子弟が塾や私塾で学ばせるようになった。寺子屋では商売や農村の運営のために「読み・書き・そろばん」が学ばれ、幕末には文字を読める人の割合は世界的にも高い水準となりました。さらに私塾が各地に出来て、読書を通じた仲間組織も結成された。蘭学・蘭学・国学を深く学ぶ裕福な町人や農民も登場しました。また、藩論も藩政改革のなかで教育を重視し、藩の武士の子弟のための藩校をつくって人材を育成しました。こうして、近代へ続く教育の土台が日本社会に出来上がりました。

1 陣田川の池田光政(1609-32)は、積極的に蘭学の教本を翻訳に取り入れました。そして、武士を対象とした藩校以外にも、庶民を対象とした陣田川学校をつくって、武士から庶民に至る藩内のあらゆる人々の教育に努めました。(岡山県 公財)特別史跡陣田川学校校舎(現存)

2 印刷技術が人々に与えた影響を、本文から書き出してみよう。

3 国学や蘭学など、新しい学問の発達が社会に与えた影響について説明してみよう。

4 幕府の改革などどのような内容があったか、確認しよう。

学者たちは私塾を作って町人や百姓を交えて学び、長崎ではオランダ商館の医師シーボルトが蘭学者や医学者を育てました。西洋の知識は測量術を進歩させ、伊能忠敬はその技術を基に正確な日本地図を作成しました。測量術や天文学が急速に進歩した背景には、外国船の来航により日本の地図を正確に作る必要があったことや、測量の基礎技術である和算が広まったこともありました。

測量術や天文学が進歩した背景について、外国船の来航などがあったことがわかります。

# 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 地域史—中央の歴史だけでなく地域史を重視

**特設ページ「歴史を探ろう」**

▶特設ページ「歴史を探ろう」では、地域の歴史を取り上げています。当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的に捉えることができます。

New

### 歴史「絹の道」と日本の製糸業

〜幕末八王子の生糸産業から近代日本の製糸業へ〜

**1 生糸の生産・取り引きで栄えた幕末八王子**

生糸の生産・取り引きで栄えた幕末八王子。八王子の生糸は、江戸時代から生糸の取り引きが盛んで、多くが八王子から横浜へ向かう道が写っています。

**2 日本の製糸業の発展**

日本の製糸業はどのように発展したのかな？

幕末の貿易開始以来、生糸は日本の主要な輸出品でした。官営の富岡製糸場などを模範として、1870年代の後半には群馬・長野・山梨県を中心に、水力や蒸気機関を利用した機械で生産する製糸場が次々に設立されました。1882(明治15)年に日本銀行が設立されると、生産規模を拡大するために必要な資金が供給されるようになり、製糸業界も活性化しました。また、農家にとって、原料となる繭の供給は重要な現金収入になりました。製糸業や紡績業など、軽工業中心の産業革命が進んでいきましたが、織造・生糸の輸送には、民間の鉄道会社の設立が促されました。日本では、産業革命が始まる以前から鉄道が開業していましたが、織造・生糸の輸送のように、貨物輸送に有利な利益を目指した鉄道建設が相次ぎ、これらが各地の産業の機械化を促していくという相乗効果がありました。機械による生糸の生産は、作業の効率が上がって生産量が増えるだけでなく、製品の品質を飛躍的に向上させ、国際競争力も高まりました。日本の生糸や絹織物の輸出先は欧米諸国であり、特にアメリカの経済発展に伴って、アメリカへの輸出が中心となっていきました。

▶p.200-201

本文で学んだことを具体事例を通じて深める「学習テーマ」

歴史を探る動機となる「疑問」

「疑問」にわかりやすく答える「解説」

歴史の学習と地域を結び付ける「関連ページ」

### 地域史 人口日本一だった新潟県

新潟は江戸時代に西廻り航路(→p.128)の重要な港として栄えました。開国後、新潟港が外国に開かれたことにより、1892年まで東京を抑えて全国一の人口を誇る県でした。しかし、太平洋側に鉄道が敷かれ、日本が工業国に変わっていくにつれ、出稼ぎや移民として出ていく人々が多くなっていきました。

↑1888年の新潟(新潟市歴史博物館提供)

↑多胡碑(高崎市教育委員会提供)

▶p.199

▶コラム「地域史」では、本文と関連付けて、地域から日本の歴史を捉え直しています。

▶p.173

## 歴史 掲載ページ一覧 (12テーマ)

ページ	タイトル
p.32-33	古墳から分かる当時の様子
p.72-73	東アジアに開かれた窓口 博多
p.120-121	琉球とアイヌの人々の暮らし
p.130-131	昆布ロードと北前船
p.142-143	世界有数の百万都市 江戸
p.176-177	世界に開かれた港 横浜

## 歴史 掲載ページ一覧 (12テーマ)

ページ	タイトル
p.182-183	移住と開拓が進む北海道
p.200-201	「絹の道」と日本の製糸業 <b>New</b>
p.228-229	発展する産業都市 大阪・神戸
p.240-241	長野県から見る満州移民 <b>New</b>
p.250-251	戦場となった沖縄
p.266-267	日本の領土画定と近隣諸国

### 歴史 長野県から見る満州移民

〜不景気から抜け出すための選択〜

**1 世界恐慌と満州移民の始まり**

世界恐慌が起こると、生産量の約90%を生糸をアメリカに輸出していた日本は、生糸の値段が暴落するなどの影響を受け、各地で多くの製糸工場が倒産しました。特に資本金による収入への依存度が高かった長野県の農家は、繭価暴落で収入が激減し、多額の借金を抱えました。また、税金の滞納者が続出し、村の収入が激減するなどの村の破産の機に陥りました。県や村では、農村を立て直すため、農家への借付金を減らしたり、土木事業などで雇用を生み出したりするほか、満州への移民も呼びかけました。

1931(昭和6)年の満州事変の後、日本は国の方針として、1932年にまずは6000人、1936年には20年間で500万人の移民を遂げる計画を立て、満州移民を進めました。長野県でも県立の移民訓練所を各地に設立して満州移民を進めました。1936年までの満州移民は、満州の防衛と開拓を主に担当しましたが、1937年以降は「満州に行けば20町歩の地主になれる」といった宣伝や、満蒙開拓青少年義勇隊参加への教師による指導などもあり、農家の次・三男や貧しい農家の多くが満州へ渡りました。

**2 満州での生活**

移民をした人々が入植したときの土地は、現地の人々の農地を買い上げたものでした。肥料も足りない土地に、現地の人を労働者として雇って農業に励みました。やがて農地が不足してくると、防衛も兼ねてソ連との国境に近い未開墾のころへへと開拓を広げました。開拓地では、軍の村や部単位でまとまって開拓団を組織し、共同で農業に取り組み、軍へ食料を提供しました。また、独自男性の開拓団員の結婚相手として、独身女性も訓練を受けて満州へ渡り、現地で結婚して家族をもつことも増えました。彼女たちは「大陸の花嫁」とよばれました。

しかし、戦争末期になると満州を守る関東軍の多くが南方の戦線に移動させられ、それを補うために開拓団の男性も軍隊に召集されました。そのため、開拓団には女性や幼い子ども、老人が多くなり、満州での農業経営も苦しくなっていました。1945年8月8日深夜に対日参戦(→p.252)を決めたソ連が9日に攻め込んでくると、開拓団からも多くの犠牲者が出て、約半数の団員が亡くなりました。こうしたことにより、中国残留日本人孤児などが生まれることになりました。

▶p.240-241

### 地域史 掲載ページ一覧 (18テーマ)

ページ	タイトル	ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.31	上野三碑に見る渡来人の影響 <b>New</b>	p.90	各地に広がった文化	p.164	那覇と函館のペリー来航 <b>New</b>
p.33	大きな古墳が集まる群馬県 <b>New</b>	p.100	鉄砲作りを支えた堺と国友	p.173	士族の救済事業となった安積開拓 <b>New</b>
p.51	蝦夷と東北の支配	p.101	世界の銀を支えた石見銀山	p.185	多摩地方の自由民権運動
p.68	大仏殿を失った「鎌倉大仏」	p.113	鳥取藩の参勤交代	p.199	近代化を支えた石炭と八幡製鉄所
p.71	北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来	p.128	日光東照宮と街道の発達	p.199	人口日本一だった新潟県
p.79	北海道の独自の文化	p.136	財政改革に成功した米沢藩	p.267	小笠原諸島の返還

# 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 地域史—琉球とアイヌの人々の歴史を重視

**琉球とアイヌの人々の一貫した記述**

▶ 琉球とアイヌの人々の歴史を古代から現代まで一貫して取り上げています。それぞれの文化や周辺地域との関わりについて深く理解することができます。

## 中世

**4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易**

琉球(沖縄県)の島々では、10世紀ごろに農耕が始まりました。14世紀半ばには北山・中山・南山の3王国が成立し、15世紀には中山の王である尚氏によって統一され、首里(現在の那覇市)を都とした琉球王国が成立しました。奄美大島から八重山列島に及ぶ地域がその領域でした。琉球は、以前から東シナ海を舞台にした独自の交易活動を行っています。14世紀末に、明との朝貢貿易を始めた琉球は、日本・朝鮮・東南アジアの国々とも盛んに交易を行いました。琉球は琉球産の硫黄や日本の武器・屏風、東南アジア産の珍しい香料や象牙などを明に持っていき、その返礼として得た生糸や絹織物・陶磁器などを諸国に販売しました。日本の坊津(鹿児島県)・博多・兵庫・堺(大阪府)の商人たちも、琉球へやって来ました。こうした中継貿易によって琉球王国は繁栄し、独自の文化を築き上げました。しかし、16世紀半ばになると、明の商人の規制を破って東南アジアへ盛んに進出するようになり、ポルトガル商人などの活動も活発になりました。その影響を受け、16世紀後半になると、琉球船の活動は衰えていきました。

**地域史 北海道の独自の文化**

本州が古墳時代から平安時代であった長し間、樺太(サハリン)から蝦夷半島・千島列島に及ぶ地域にはオホーツク文化が、北海道のそれ以外の地域には縄文文化とよばれる独自の文化が、形づくられていました(→p.29)。縄文文化は、天竺でこすった跡が残る土器(縄文土器)が出土することから名前が付けられており、やがてオホーツク海沿部まで広がりました。後に縄文文化はアイヌ文化へと発展していきました。

▶ **縄文文化** オホーツク文化の遺跡から出土した熊の骨、鹿の骨で作られています。何かしらの儀式に使われたと考えられています。(北海道 釧路市立縄文博物館)

▶ **縄文土器** 縄文文化の代表として知られています。天竺でこすった跡が残る土器(縄文土器)が出土することから名前が付けられており、やがてオホーツク海沿部まで広がりました。後に縄文文化はアイヌ文化へと発展していきました。

**4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易**

琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。

**東アジアをつなぐ琉球** 琉球(沖縄県)の島々では、10世紀ごろに農耕が始まりました。14世紀半ばには北山・中山・南山の3王国が成立し、15世紀には中山の王である尚氏によって統一され、首里(現在の那覇市)を都とした琉球王国が成立しました。奄美大島から八重山列島に及ぶ地域がその領域でした。琉球は、以前から東シナ海を舞台にした独自の交易活動を行っています。14世紀末に、明との朝貢貿易を始めた琉球は、日本・朝鮮・東南アジアの国々とも盛んに交易を行いました。琉球は琉球産の硫黄や日本の武器・屏風、東南アジア産の珍しい香料や象牙などを明に持っていき、その返礼として得た生糸や絹織物・陶磁器などを諸国に販売しました。日本の坊津(鹿児島県)・博多・兵庫・堺(大阪府)の商人たちも、琉球へやって来ました。こうした中継貿易によって琉球王国は繁栄し、独自の文化を築き上げました。しかし、16世紀半ばになると、明の商人の規制を破って東南アジアへ盛んに進出するようになり、ポルトガル商人などの活動も活発になりました。その影響を受け、16世紀後半になると、琉球船の活動は衰えていきました。

**アイヌの人々と交易**

日本列島の北端では、狩りや漁を中心とした生活が長く続いていましたが、13世紀までにはアイヌ文化が成立しました。蝦夷地(北海道)のアイヌの人々は、樺太に渡出し、アムール川流域と活発に交易・交流していました。また、津軽半島(青森県)の十三湊も、アイヌの人々との交易地となり、北の日本海交通の中心でした。14世紀ごろには、領主である安藤(安東)氏の下で繁栄し、北方産の鹿や昆布・毛皮などが日本海交通によって京都などへ運ばれていきました。やがて和人(本州の人々)は、蝦夷地の南部へ進出し、船とよばれる根拠地を通り、アイヌの人々と交易しました。15世紀半ば、和人の進出に圧迫されたアイヌの人々は、コシャマインを指導者として、和人と衝突を起こしました。この衝突から80年ほど争いが続くなかで、和人の居住地は限定されていきました。その後しばらくは、アイヌの人々と和人の交易は安定したものとなりました。

小学館「地理・公民との関わり」アイヌの人々(小・中・高)

小学館「地理・公民との関わり」琉球(小・中・高)

## 古代

**2 ムラがまじりクニ**

縄文時代から古墳時代にかけて、日本列島の各地にムラがまじりクニという社会形態が広がりました。これは、異なる文化圏の人々が集まり、互いに影響を与えながら生活していた社会形態です。この社会形態は、縄文時代の後半から古墳時代の前半にかけて最も盛んに行われていました。この社会形態は、縄文時代の後半から古墳時代の前半にかけて最も盛んに行われていました。この社会形態は、縄文時代の後半から古墳時代の前半にかけて最も盛んに行われていました。

**北海道・南西諸島の歩み**

年	南西諸島	本州九州・四国	北海道
前400	縄文文化の中心	縄文文化の中心	縄文文化の中心
紀元	弥生文化の中心	弥生文化の中心	縄文文化の中心
200	古墳文化の中心	古墳文化の中心	縄文文化の中心
400	飛鳥文化の中心	飛鳥文化の中心	縄文文化の中心
600	奈良文化の中心	奈良文化の中心	縄文文化の中心
800	平安文化の中心	平安文化の中心	縄文文化の中心
1000	鎌倉文化の中心	鎌倉文化の中心	縄文文化の中心
1200	室町文化の中心	室町文化の中心	縄文文化の中心
1400	安土・桃山文化の中心	安土・桃山文化の中心	縄文文化の中心
1600	徳川文化の中心	徳川文化の中心	縄文文化の中心
1800	明治文化の中心	明治文化の中心	縄文文化の中心

小学館「地理・公民との関わり」縄文時代(小・中・高)

小学館「地理・公民との関わり」縄文時代(小・中・高)

## 近世

**4 琉球王国とアイヌの人々への支配**

琉球王国やアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。

**琉球への薩摩藩の侵入** 琉球(鹿児島県)は、明との貿易で栄えていた琉球王国(沖縄県)を1609年に支配し、餘地を行って百姓から年貢米や布などを取り立てるなど、厳しく監督しました。琉球は、明に朝貢し、明の文化や産物、海外情報を積極的に取り入れていました。それらは幕府や薩摩藩にとっても貴重であったため、明の後に出来た清とも、幕府や薩摩藩の管理の下で朝貢を続けることが認められました。琉球から中国へは、薩摩藩を通して入手した日本や蝦夷地の馬、硫黄、昆布・ふかひれ・なまこなどの海産物が輸出され、中国から琉球へは、絹織物・医薬品・茶・陶磁器が輸入されました。また、琉球産の黒砂糖、漢方薬・染料に使われるウコンが盛んに作られ、琉球はそれらを薩摩藩の商人を通じて大阪で売り、そこで得た利益を中国との貿易資金にしました。琉球からは、将軍が代わるごとに薩摩使とよばれる親任使の使節と、琉球王が代るごとに謝恩使とよばれる感謝の使節が江戸に派遣されました。薩摩藩は、これらの使節の行列を中国に立上って行進させ、幕府と薩摩藩の権威が遠く琉球まで及んでいることを国内の人々に印象づけました。

**4 琉球王国とアイヌの人々への支配**

琉球王国やアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。

**蝦夷地への松前藩の侵入** 蝦夷地(北海道)の多く土地にはアイヌの人々が暮らし、南西部の渡島半島には松前藩の和人の住み込みの海産物や毛皮などを渡島半島や東北地方まで運び、和人と米・木綿・鉄製品などと交換していました。また、千島列島・樺太・中国東北の人々とも交易していました。松前藩は、耕地が乏しく冷涼な気候で米がとれなかったことから、年貢米による収入の代わりにアイヌの人々と交易し、その利益を得る権利を幕府から与えられました。松前藩の武士がアイヌの人々の住む地へ行って交易を行うようになり、品物を交換する際の比率がアイヌの人々にとって不利なものになると、松前藩への不満が高まりました。アイヌの人々は、かつてのアイヌ主体の交易を求め、松前藩と対立し、1669年にシャクシャインを中心に立ち上がって戦いました。しかし、幕府の支援を受けた松前藩に敗れ、その結果、松前藩が交易の主導権を握るようになりました。18世紀になると松前藩の交易は、海産物の交易を大商人に譲り負せ、のちには漁場に多くのアイヌの人々が働き手として雇い出されることになりました。

小学館「地理・公民との関わり」松前藩(小)、アイヌの人々(小・中・高)、シャクシャイン(小)

### 琉球とアイヌの人々の歴史 掲載ページ一覧 ※太字: ここで扱っているページ

ページ	タイトル
p.78-79	琉球とアイヌの人々がつなぐ交易
p.118-119	琉球王国とアイヌの人々への支配
p.120-121	歴史を探ろう 琉球とアイヌの人々の暮らし
p.164	コラム 那覇と函館のペリー来航
p.180-181	沖縄・北海道と「近代化」の波
p.182-183	歴史を探ろう 移住と開拓が進む北海道

ページ	タイトル
p.227	見出し 見直される伝承や文化
p.250-251	歴史を探ろう 戦場となった沖縄
p.268-269	見出し 沖縄の復帰と基地問題
p.269	コラム 現在に残る沖縄の基地問題
p.281	コラム 日本における先住民族

**アイヌオムシヤの様子** オムシヤとはアイヌ語で「狭いさつ」の意味で、もともとアイヌの人々との交易の場を指していました。松前藩が出現するまでは、松前藩がアイヌの人々を集め、支配するための儀礼となりました。(日高アイヌオムシヤ) 北海道 釧路市中央図書館蔵

**にしんの漁場で働く人々** 取れたにしんを運んだり干したりして働く人々が描かれています。後の松浦武助(→p.181)もこのようなアイヌの人々の姿を伝えています。(日高アイヌ博物館蔵 東京国立博物館蔵)

**1669年ごろの蝦夷地** 1669年にシャクシャインの戦いでアイヌの人々と松前藩の戦いが起こる

**アイヌの人々の暮らし** アイヌの人々の暮らしの様子を写した絵画です。

**アイヌの人々の暮らし** アイヌの人々の暮らしの様子を写した絵画です。

**アイヌの人々の暮らし** アイヌの人々の暮らしの様子を写した絵画です。

**アイヌの人々の暮らし** アイヌの人々の暮らしの様子を写した絵画です。

小学館「地理・公民との関わり」松前藩(小)、アイヌの人々(小・中・高)、シャクシャイン(小)

## 現代

**未来に向けて 人権 日本における先住民族**

1946年に北海道アイヌ協会(→p.223)は再結成されました。その後、1980年代に世界の先住民族が復権を訴え、動き始めたことにより、アイヌの人々もその流れに合流しました。1997年に、アイヌの人々の伝統文化を取り戻し発展させる「アイヌ文化振興法」が制定され、これにより北海道旧土保護法(→p.181)は廃棄されました。2007年に、国連総会で「先住民の権利に関する国際連合宣言」が採択されたことを受けて、08年、アイヌの人々を先住民族とすることを求める国会決議がなされました。政府は、日本が近代化する過程において、差別されたアイヌの人々が多くいた歴史的事実を認め、総合的な施策の確立に取り組むことを表明しました。この一環として、アイヌ文化を復興・発展させる拠点としての「民族共生象徴空間」の整備が決定し、国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園が北海道白老町に2020年に完成する予定です。また、政府はアイヌの人々の誇りが尊重される地域社会づくりに向けた「アイヌ施策推進法」を2019年に制定しました。

▶ **国立民族共生公園(イメージ)** 民族共生象徴空間の愛称は、アイヌ語で「大勢で歌うこと」という意味の「ウボポイ」に決定しました。

小学館「地理・公民との関わり」先住民族(小・中・高)

### ポイント

現代についても、最新の状況を取り上げています。「未来に向けて」のコラムでは、沖縄の基地問題や、2019年に制定された「アイヌ施策推進法」について記述しています。

p.281

# 特色 2 多面的・多角的に日本の歴史を捉える視点 歴史の理解を深めるさまざまな視点

## 異なる見方を示す資料

▶一つの歴史的事象について、**さまざまな立場の人々の見方を示す資料**を多く掲載しています。  
たとえば第二次世界大戦のページでは、人々が敗戦をどのように受け止めたか、異なる三つの意見を掲載しています。

▶p.252

### それぞれの敗戦①

「戦争は終わってしまった?! 考えてもみなかったことが、とつぜんおこった。頭のなかがあっけぽくなった。目の前が黒くなったり、赤くなったりした。冗談じゃないと思った。そんな馬鹿なことであるか。この期におよんでなににごた。陛下、なぜ降伏したのですか。このわたくしは、いったいどうなるのですか。…中略…陛下、なぜ最後まで戦わないのですか。なぜ『朕のために死ぬ』とおっしゃらないのですか」  
〈小熊宗克『死の影に生きて——中学生の勤労動員日記』より、一部要約・抜粋〉

### それぞれの敗戦②

「友だちの中には泣いているひともあったが、私はくやしいとよりはもっと複雑な思いがしていた。それは戦争も『やめられる』ものであったのかという発見であった。私には戦争というものが永久につづく冬のような(そんなものは実際にありはしないのだが)天然現象であり、人間の力ではやめられないもののような気がしていたのだ」  
〈北山みね『人間の魂は滅びない』『昭和戦争文学全集14』より、一部要約・抜粋〉

### それぞれの敗戦③

「『よしよし。ところで、文子、今日は赤飯をたこうじゃないか。もっとも、敗戦を祝ったなんていうと人聞きがわるいから、名目は月おくれのお盆ということにするさ。本心は生き残ったことのお祝いということだがね。』…中略…夕食の膳に顔をそそえたと、誰いとうなく、『おめでとう』をいう」  
〈富塚清『ある科学者の戦中日記』より、一部要約・抜粋〉

## 多くの人物を掲載

- ▶学習内容に深く関わった人物を**「人物コラム」**で紹介しています(計49名)。為政者だけでなく、地域で活躍した人や女性など、**さまざまな立場の人々**を紹介しています。
- ▶巻末には、教科書に掲載された**おもな人物のさくいん**を掲載しています(計318名)。
- ▶**小学校の社会科で学習する42人の人物**も、すべて掲載しています。

## 「人物コラム」一覧 (49名)

※太字：新しく追加された人物  
赤字：女性

b>

章(時代)	人物
第2部	孔子, シャカ, イエス, ムハンマド, 鑑真,
第1章(古代)	菅原道真, 最澄, 空海
第2章(中世)	平将門, 源義経, 足利義満, 雪舟
第3章(近世)	千利休, 山田長政, 天草四郎, 徳川綱吉, 高田屋嘉兵衛, 松尾芭蕉
第4章(近代前)	ワシントン, ナポレオン, マルクス, ビスマルク, 高杉晋作, 大塩平八郎, <b>大浦慶</b> , 吉田松陰, 福沢諭吉, <b>江藤新平</b> , 西郷隆盛, 大久保利通, <b>松浦武四郎</b> , <b>島義勇</b> , 伊藤博文, 渋沢栄一, 正岡子規
第5章(近代後)	ウィルソン, ガンディー, 原敬, <b>与謝野晶子</b> , <b>平塚らいてう</b> , <b>山川菊栄</b> , 宮沢賢治, <b>山口淑子</b> , 蒋介石, 毛沢東, 斎藤隆夫
第6章(現代)	吉田茂, 湯川秀樹, 手塚治虫

**New**

**江藤新平**  
1834~1874

近代日本の司法制度を整備

佐賀藩の出身で、新政府では近代国家建設で活躍しました。江戸を東京と改称して都の新設を提案したこと(→p.170)や民法の編纂に関わったこと、司法制度を整備し、裁判所を設置したことなどが業績として知られ、佐賀の七賢人としてたたえられています。しかし、江藤は征韓論をめくり、西郷隆盛や板垣退助らとともに政府を去り(→p.179)、1874(明治7)年に士族の不満を訴えるため、佐賀の乱を起こしました。

▶p.175

**New**

**山川菊栄**  
1890~1980

男女平等の考えを広めた社会主義者

女子英学塾(→p.178)で外国の女性解放運動を学び、高い分析力と科学的な視点から「母性保護論」に参加していき、1921年には、日本で初めての女性による社会主義団体を結成しました。また、第二次世界大戦後には、労働省の初代婦人少年局長に就任しています。

▶p.231

文化史・地域史のほかにも、歴史の理解を深めるためのさまざまな視点を盛り込んでいます。  
多様な立場や異なる見方を学ぶことで、歴史を多角的に捉えることができます。

## 未来に向けて

### 人権 中世の老人と子ども, 女性

絵巻物に描かれている子どもの姿を調べると、中世の子どもたちが、半ば遊びながら大人たちの仕事を手伝い、見習っていたことが分かります。なかでも、子どもたちにとって身近だったのは老人(高齢者)でした。老人は、子守などの育児を担っていたため、同じことを何度も聞かされた子どもにも、何度も何度も話を聞かされました。こうして昔からの知恵や知識は、老人から子どもたちへと伝えられたのです。また、子どもたちも、体が不自由になりがちな老人たちの世話や介護を担っていました。老人と子どもは、このような互いの働きかけによって、とても親密な関係にあったのです。

一方、古代から中世にかけて女性の地位は高く、財産を持つことや相続することも認められていました。また奈良時代までは、生まれた子は母親に属すると考えられていました。そのため、母方の姓を名乗る人も多く、「万葉集」(→p.47)などによれば、婿の結婚には母親の承認が必要でした。鎌倉時代以降に商業が発達し、市などが各地に出来ると、外で商いをする女性も数多く登場してきました(→p.80B)。中世までは、このような女性の地位や権利が認められていました。



▶老人と子ども  
絵巻物には、子どもと老人の姿がよく一緒に描かれます。子どもが老人を助けています。  
〔法然上人絵巻〕京都市 知恩院蔵



▶大原女 炭の産地であった京都北部の大原から、薪や炭などを頭に載せて都まで売りに来ていた女性たちです。頭に手ぬぐいを巻き、高袖を付けた独特な姿は、燃料に乏しかった都の人たちの心をとらえていました。(『七十一番職人歌合』(原本、部分) 東京国立博物館蔵)

▶p.83

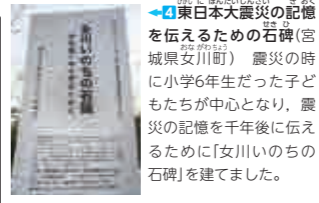
## 未来に向けて

### 環境 現代社会の見直しを迫った東日本大震災

2011年3月11日、東北地方の太平洋沖を震源とする、日本の観測史上最大の地震が起きました。地震のあと、東北地方を中心に津波が襲い、死者・行方不明者は合わせて1万8千人以上という大きな被害が出ました。多くの人が家を失い、街全体に大きな被害を受けた地域もありました。

さらに地震と津波により、福島県の原子力発電所で事故が起こり、放射性物質が外部に漏れ出しました。放射性物質の広がり、人々に健康や食品への不安を引き起こしました。事故を起こした原子力発電所周辺の住民たちの避難や、がれきや汚染水などの処理は今なお続いています。

東日本大震災は、自然災害の恐ろしさとともに、「当たり前」と感じてしまう日々の生活の大切さを改めて考えさせました。地域社会のつながりや地域社会で共有された記憶の大切さも認識されました。また、この大震災を機に、エネルギーを大量に使う社会のあり方も議論されるようになりました。



▶東日本大震災の記憶を伝えるための石碑(宮城県女川町) 震災の時に小学6年生だった子どもたちが中心となり、震災の記憶を千年後に伝えるために「女川いのちの石碑」を建てました。

▶事故を起こした直後の福島第一原子力発電所

▶p.283

## 未来への視点を養う コラム「未来に向けて」

▶**未来の社会をつくるために参考となる先人たちの取り組みを、環境・交流・人権・平和の四つの視点から紹介しています。**

## ポイント

持続可能な開発目標(SDGs)に関連する項目を示しています。

## 未来に向けて 掲載ページ一覧(43テーマ)

※太字：ここで扱っているページ

視点	ページ	タイトル	視点	ページ	タイトル	視点	ページ	タイトル
環境	p.51	自然を畏れ敬った古代の人々	人権	p.217	朝鮮との架け橋となった日本人	平和	p.215	社会に羽ばたく女性たち
	p.67	鴨長明が見た自然災害		p.226	人々を魅了した洋菓子文化		p.223	全国水平社の結成
	p.87	自然を生かした信玄堤		p.278	世界に広がる日本の文化		p.265	在日韓国・朝鮮人
	p.127	森林伐採と植林	p.83	中世の老人と子ども, 女性	p.273		男女共同参画社会へ	
	p.143	江戸のごみを利用した農業	p.91	庭園造りで活躍した河原者	p.281		日本における先住民	
	p.153	工業の発達と生活環境の悪化	p.125	差別された人々	p.235		芸術に込めた反戦の意志	
	p.203	公害の登場 足尾銅毒事件	p.154	先住民の「涙の旅路」	p.245		ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人	
p.205	ハーンと濱口梧陵の「稲むらの火」	p.155	奴隸制を告発した「アングル・トムの小屋」	p.247	子どもの文化の変化			
p.227	大都市を襲った関東大震災	p.159	世界各地に広がる人権思想・民族意識	p.251	語り継がれる沖縄戦			
p.283	現代社会の見直しを迫った東日本大震災	p.163	渋染一揆	p.258	旧日本兵の解放			
交流	p.77	東アジアの美, 磁器	p.171	差別からの解放運動	p.263	核兵器開発競争と日本		
	p.117	日本と朝鮮をつないだ倭館	p.184	「自由は土佐の山間より」	p.269	現在に残る沖縄の基地問題		
	p.191	エルトゥールル号のきずな	p.187	日本での選挙の始まり	p.275	言論の自由の回復と戦争へのまなざし		
	p.197	日本と中国をつないだ人々	p.206	差別された人々を描いた文学				
	p.213	祖国の音楽を紹介したドイツ兵	p.215	人種差別撤廃への道				

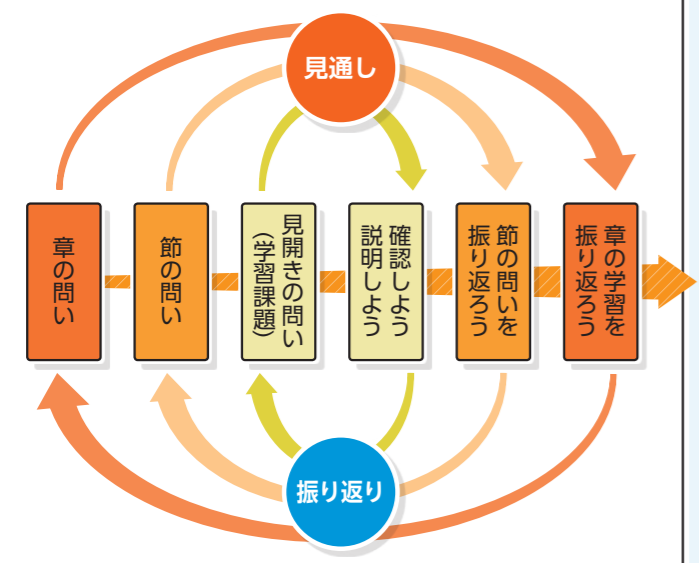
# 特色③ 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

①章・節の構造

特色③では、見通し・振り返り学習がしやすい「問い」の構造について説明しています。この構造により、単元のまとまりで課題解決的な学習ができ、「深い学び」につながります。

見通し・振り返り学習を積み重ねて深い学びの実現へ

深い学びにつながる「問い」の構造の全体イメージ



本教科書は、章・節・見開きという三つの構成をとっており、章は中世や近世といった時代を、節は章を細分化した時代区分やテーマを、見開きはそれぞれの政治・経済・文化の歴史を扱っています。そして章・節・見開きには問いと振り返りを設け、それぞれのなかで見通し・振り返り学習ができるようにしています。このように見開きから節へ、節から章へと見通し・振り返り学習を積み重ねていき、章の最後の「章の学習を振り返ろう」では、「章の問い」(課題)を自分なりに追究していくことができる構成になっています。

## ポイント

章と節の関係イメージ



各節の「節の問い」の積み重ねが「章の問い」の追究につながります。

## 章の問い

▶章のはじめには「章の問い」を設けています。この単元を貫く問いを明示することで見通しをもって学習に取り組みます。

## 第2部第3章 近世

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

### 第3章 近世 武家政権の展開と世界の動き

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

#### 第1節 大航海によって結び付く世界

第1節の問い p.94~101

ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。

▶1 イスラムの国での研究の様子 イスラムの国々では、ギリシャやインドの影響を受けて、さまざまな学問が発展しました。  
資料活用 図版1の中から下に挙げたA~Cを探してみよう。  
A. 地球儀 B. 砂時計 C. アストラーベ

▶2 羅針盤 航海のときに方向を知るための道具です。磁石の南北を指し示す性質が中国から伝わり、ヨーロッパで実用化されました。

▶3 アストラーベ 天体の高度を測るための観測器具です。船の上で地球の緯度を知ることができました。

## 1 ヨーロッパの 変革

学習課題 キリスト教に基づいたヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流により、どのように変化していったのだろうか。



▶4 ミケランジェロ作「最後の審判」ローマ教皇に命じられ、ミケランジェロはローマの大聖堂や礼拝堂などに壁画や彫刻を制作しました。この絵は60歳から6年がかりで完成しました。(バチカン市国 システティナ礼拝堂蔵 高さ14.4m×幅13.3m 16世紀)

イスラムとの交流とヨーロッパ キリスト教が人々の精神的な支えとなっていたヨーロッパでは、ローマ帝国の分裂後、しだいにローマ教皇(法王)を首長とするカトリック教会の勢が増し、各国の王をしのぐ力をもつようになりました。11世紀末、教皇がイスラム勢力の中にある聖地エルサレムを奪い返すよう呼びかけ、ヨーロッパ各国の王は十字軍の遠征を行いました。

この試みは失敗しましたが、ヨーロッパの国々とイスラム勢力が接触したことで、イタリア商人とイスラム商人の貿易が活発になりました。ユーラシア大陸を広く行き交うイスラム商人との交易により、彼らが航海などでつちかった天文学などの高い水準の学問や技術が、ヨーロッパに紹介されました。

新しい芸術と技術 ヨーロッパの生活や文化は、カトリック教会の影響を強く受けていました。しかし14世紀になると、人間の個性や自由を表現しようとした古代ギリシャ・ローマの文化を理想とするルネサンス(文芸復興)とよばれる新しい風潮が

## 節の問い

▶章のなかの各節のはじめには「節の問い」を設けています。節ごとに到達目標を明示して、見通しをもって学習に取り組みます。

第4節の問い p.124~133 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

### 第4節 天下泰平の世の中

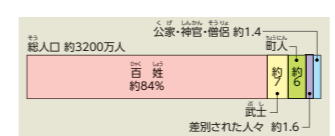
第4節の問い p.124~133 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

▶11 年貢を納める様子 蔵に運ばれてきた年貢米を、俵の中からすべて出して、年貢米の量を四角の升で量り直しているところです。(円山応挙作「七難七福図巻」京都府 相国寺蔵)

左にいる二人の武士は、何をしているのかな。

## 1 身分制の下での暮らし

学習課題 江戸時代の身分制とは、どのようなしくみののだろうか。



▶12 江戸時代の身分別人口構成(幕末の推定値) (関山直太郎「近世日本の人口構造」)

身分制と武士 幕府は、社会の安定化を図るため、豊臣秀吉のときに行われた兵農分離をさらに進め、17~18世紀にかけて、武士と百姓・町人の身分を区別するしくみを固めていきました。この過程で、百姓や町人に組み入れられなかった一部の人々は、差別されることになりました。

この身分制の下で、政治を行う支配者の身分とされた武士は、主君に仕え、軍事や行政に関わる義務を負いました。一方で、名字(姓)を名乗ることや、刀を差すこと(帯刀)などの特権を持ちました。武士は幕府や藩の役職に就いて、幕府や藩から石高に応じて、領地や米が支給されました。

百姓・町人 全人口の80%以上を占めたのは百姓で、大部分は村に住み農業を営む農民であり、自給自足に近い生活をしていました。農民は、農地を持ち年貢を納める本百姓と、農地を持たない水呑百姓などに分かれていました。村の有力者は、名主(庄屋)・組頭・百姓代など村方三役という役目に就き、村の自治に当たりました。農民に課せられた主な税は、収穫した米の40~50%の年貢でした。年貢は藩や幕府に納められ、武士の生活を

# 3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

②見開きの構造

見開き単位でも見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。  
各見開きの学習を積み重ねて、章を構成する各節の「節の問い」の追究につながります。

章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

第4節の問い 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。

第4節の問いを振り返ろう 社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したが、説明してみよう。

節の問いを振り返ろう  
▶「節の問い」を受けて各節の最後に設置しています。  
学んだことを説明する形で振り返ることができます。

第3章第4節を例に

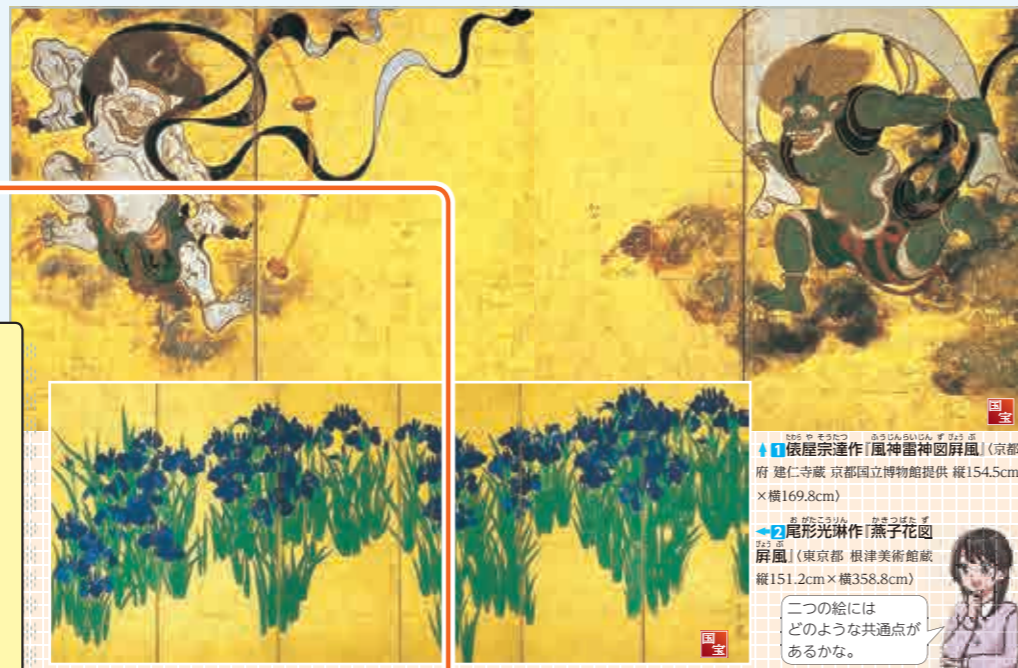
## 学習課題

▶「節の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。見開きの学習内容を見通す問いです。

## ポイント

### 節と見開きの関係イメージ

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつなぐ学習内容の積み重ねが「節の問い」の追究につながります。



## 4 上方で栄えた町人の元禄文化

江戸時代、京都・大阪を合わせて上方とよびました。



人形浄瑠璃 浄瑠璃(物語)・三味線・操り人形から成る人形浄瑠璃は、庶民に親しまれました。現代の文楽も、その一つです。(東京都早稲田大学演劇博物館蔵)

江戸時代前半にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

町人が育てた元禄文化 戦乱の世が終わると、商業の発達と都市の繁栄によって、年貢などで生活を支える武士よりも、町人たちが経済的なゆとりを持つようになりました。17世紀末から18世紀初めにかけて、経済力や技術力を持つ上方の町人が生み出した文化を、当時の元号を踏まえて元禄文化といえます。

町人が社会の担い手となったことから、文学作品も町人の日常を描くようになりました。大阪の町人であった井原西鶴は、金銭や出世を追い求めて喜んだり悲しんだりする町人の姿を浮世草子とよばれる小説に描きました。また、町人は、その財力で人形浄瑠璃や、この時期に踊りから演劇へと形を整えた歌舞伎を楽しむようになり、義理と人情の板ばさみになる男女の姿を描いた近松門左衛門の台本は評判となりました。俳諧は、松尾芭蕉によって芸術性が高められ、町人や裕福な百姓の間で親しまれていきました。

132 小学校 ● 地理 ● 公民との関連 ● 近松門左衛門(小)、松尾芭蕉(小)



見返り美人図 師宣が筆で描いた浮世絵です。華やかな着物を着た町人の若い女性の姿を描いています。(東京国立博物館蔵)

松尾芭蕉 1644~94  
俳諧を芸術の域に高めた俳人

「おくのほそ道」は、1702年に出版され、俳諧が広まるきっかけとなりました。1689(元禄2)年3月に松尾芭蕉が弟子を連れて江戸を出発し、東北や北陸を回って大垣(岐阜県)に到着するまでの、5か月にわたる行程約2400kmの旅と、各地でよんだ句を記したものです。紀行文学の傑作といわれています。

▶「おくのほそ道」で芭蕉が旅した道とよんだ句

松尾芭蕉と弟子(奈良県天理大学附属天理図書館蔵)

一方、「鎖国」は、日本独自の文化の発展を促しました。江戸で活躍した菱川師宣は、役者絵や美人画などの町人の姿を描いて、浮世絵の祖といわれ、浮世絵は版画にもなりました。また、政治の中心が京都から江戸へ移ったため、京都では、より文化に力を入れる動きが生まれ、俵屋宗達や尾形光琳らが屏風や時絵などに大和絵の伝統を生かした華麗な装飾画を描きました。

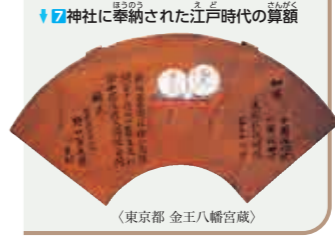
徳川綱吉による儒学の奨励は、ほかの学問の発展も促しました。なかでも日本独自の数学である和算では、関孝和が優れた研究を残しました。渋川春海が和算を基に、中国の古い形の暦を日本独自のものへ修正したことで、日を正しく確認できるようになりました。

現在に続く年中行事と 正月や節句などの年中行事は、稲作に響き合って生まれました。18世紀になると農村では、ひな祭りや端午の節句のこいのぼり、盆踊りなどが日常生活に節目を付ける行事として定着しました。また、一日二食の食事が、三食になる形が庶民にも広まりました。さらに、菜種油などを使った行灯が照明として普及し、人々は遅くまで働いたり、遊んだりすることができるようになりました。

第4節の問いを振り返ろう 社会が安定した結果、人々の生活や産業はどのように変化したが、説明してみよう。

## 歴史 プラス 一大ブームとなった和算

和算の発達には、商業の発達により取り引きが活発になったことも背景にありました。そのため、一般の庶民も和算に親しむようになり、一大ブームが起こりました。人々が集まる神社や寺院には、自分の発見した数学の難問を書いた絵馬である算額が奉納され、数学の研究発表の場ともなりました。



神社に奉納された江戸時代の算額 (東京都金王八幡宮蔵)

この時代に庶民が親しんだものを、本文から二つ以上書き出してみよう。

なぜ上方の町人が文化の担い手となったのか、その理由を説明してみよう。

確認しよう  
▶ 学習内容を振り返り、本文の中から学習上大きな事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な習得を促します。

説明しよう  
▶ 学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いです。思考力、判断力、表現力の育成を促します。

# 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

③「章の学習を振り返ろう」

## 章の学習を振り返ろう

▶「章の問い」を受けて章末に設置しています。思考力・判断力・表現力を用いた課題での振り返りを行い、「深い学び」を実現できる構成としています。

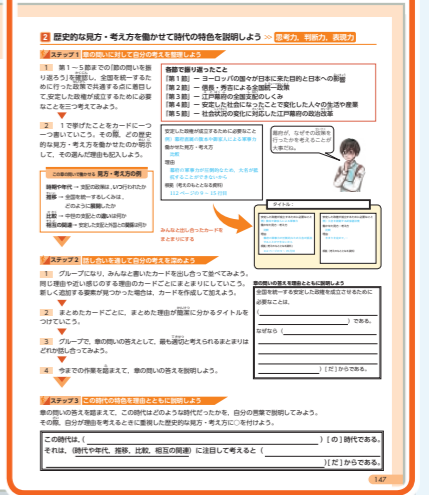
## 「章の学習を振り返ろう」 ページ構成

左ページでは学習してきた知識を確認します。右ページでは「章の問い」に対して思考・判断・表現できる構成になっています。

左ページ：知識の確認



右ページ：思考・判断・表現



p.146-147

## 2 歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう >> 思考力、判断力、表現力

### ステップ1 章の問いに対して自分の考えを整理しよう

1 第1～5節までの「節の問いを振り返ろう」を確認し、全国を統一するために行った政策で共通する点に着目して、安定した政権が成立するために必要なことを三つ考えてみよう。

- 各節で振り返ったこと
- 第1節 — ヨーロッパの国々が日本に来た目的と日本への影響
  - 第2節 — 信長・秀吉による全国統一政策
  - 第3節 — 江戸幕府の全国支配のしくみ
  - 第4節 — 安定した社会になったことで変化した人々の生活や産業
  - 第5節 — 社会状況の変化に対応した江戸幕府の政治改革

2 1で挙げたことをカードに一つ一つ書いていこう。その際、**どの歴史的な見方・考え方を働かせたのか明示**して、その選んだ理由も記入しよう。

安定した政権が成立するために必要なこと  
例) 幕府直属の旗本や御家人による軍事力働かせた見方・考え方  
比較  
理由  
幕府の軍事力が圧倒的なため、大名が抵抗することができないから  
根拠(考えのもととなる資料)  
112ページの9～15行目

行ったか考えることが大事だね。

この章の問いで働かせる 見方・考え方の例

時期や年代 → 支配の政策は、いつ行われたか  
推移 → 全国を統一するしくみは、どのように展開したか  
比較 → 中世の支配との違いは何か  
相互の関連 → 安定した支配と外国との関係は何か

みんなと出したカードをまとまりにする

### ステップ2 話し合いを通して自分の考えを深めよう

1 グループになり、みんなと書いたカードを出し合って並べてみよう。同じ理由や近い感じのする理由のカードごとにまとまりにしていこう。新しく追加する要素が見つかった場合は、カードを作成して加えよう。

章の問いの答えを理由とともに説明しよう

全国を統一する安定した政権を成立させるために必要なことは、  
( ) である。  
なぜなら ( )  
( ) [だ] からである。

2 まとめたカードごとに、まとめた理由が簡潔に分かるタイトルをつけていこう。

3 グループで、章の問いの答えとして、最も適切と考えられるまとまりはどれか話し合ってみよう。

4 今までの作業を踏まえて、章の問いの答えを説明しよう。

### ステップ3 この時代の特色を理由とともに説明しよう

章の問いの答えを踏まえて、この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。その際、自分が理由を考えるときに重視した歴史的な見方・考え方に○を付けよう。

この時代は、( ) [の] 時代である。  
それは、(時代や年代, 推移, 比較, 相互の関連) に注目して考えると ( ) [だ] からである。

147

## ステップ1

「章の問い」に対して自分の考えを整理する。

- ▶「節の問いを振り返ろう」を集約する。
- ▶「歴史的な見方・考え方」を働かせる。
- ▶自分がそう考えた理由とその根拠となる資料を挙げる。

## 章の問い 全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。

安定した政権が成立するために必要なこと  
例) 幕府直属の旗本や御家人による軍事力働かせた見方・考え方  
比較  
理由  
幕府の軍事力が圧倒的なため、大名が抵抗することができないから  
根拠(考えのもととなる資料)  
112ページの9～15行目

安定した政権が成立するために必要なこと  
例) 大名を統制する武家道徳働かせた見方・考え方  
比較  
理由  
きまりを定めて、…  
根拠(考えのもととなる資料)

## ステップ2

話し合いを通して「章の問い」の答えを説明する。

- ▶グループでカードを出し合せてまとめる。
- ▶まとめたカードにタイトルを付ける。

## 例 章の問いの答えを理由とともに説明しよう

全国を統一する安定した政権を成立させるために必要なことは、(強大な権力をもつ幕府のしくみをつくること) である。なぜなら(江戸幕府は、全国の4分の1の土地を直接支配し、全国のおもな鉱山を直轄地とし、貨幣をつくる権利を握り、貿易を独占し、強大な軍事力をもっていたために、大名をおさえることができた) [だ] からである。

## ステップ3

「章の問い」の答えをふまえて時代の特色を自分の言葉で説明する。

## 例

この時代は、(戦乱がなく、武士による安定した政治が行われた) [の] 時代である。それは、(時代や年代, 推移, 比較, 相互の関連) に着目して考えると(戦乱が続いた中世に対し、江戸幕府による大名統制、貿易統制や身分の統制で、秩序を重視した社会になった) [だ] からである。

深く学ぶ



# 3 深い学びにつながる「問い」 異なる意見や立場から歴史を考察する特設ページ

**考察の視点**

▶ 考察する際の視点(ポイント)を明示しています。ここでは、武力の重視から文治政治に転換していく時代に起こった赤穂事件の処罰をめぐって、当時の社会の様子を多面的・多角的に考察することがポイントになっています。

**考察のテーマ**

▶ 考察の視点を受けて、考察のテーマを設定しています。赤穂事件の処罰についての、当時の議論がテーマになっています。

**当時の社会の様子を読み解く資料**

▶ 当時の社会情勢を反映する資料を読み解くことで、当時の社会の考え方をふまえてテーマをさらに深く考察します。ここでは、赤穂事件の経緯を概観したうえで、江戸の人々が事件をどのように見ていたのかを示し、また私的な争いを禁止する武家諸法度の条文などを提示しています。

**多面的・多角的に考えてみよう**

**赤穂事件を考察する - 旧赤穂藩の浪士たちの処罰の行方**

**考察の視点** 徳川綱吉(→p.125)の治世である1702年12月14日、旧赤穂藩の浪士(赤穂浪士)たちが吉良邸に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取りました。江戸の人々は、浪士たちを主君浅野内匠頭長矩の仇討ちを果たした「忠臣の義士」と褒めたため、諸藩からも彼らを助命する願いがありました。このような状況で、幕府は赤穂浪士たちにどのような処罰を下したのでしょうか。当時の人々の考え方を踏まえながら、この処罰の方針をめぐる意見の対立から、当時の社会の様子を多面的・多角的に考察してみよう。

▶ 吉良邸への討ち入り(葛飾北斎作「仮名手本忠臣蔵」江戸東京博物館蔵)

**テーマ** 赤穂浪士を「忠臣の義士」として許すか、「徒兇」を組んだ罪で厳罰にするべきか。

**5代將軍徳川綱吉は迷っていた…**

もし、主君の仇討ちを許さないというのであれば、古からの道理にも背き、忠臣や孝子\*の心を傷つけることになる。さらには、「学問・武道と忠義・孝行に励む」とした武家諸法度にも背くものである。浪士たちを厳罰にするのは、果たして適切なことなのだろうか。

**幕府の評定所\*の意見**

浪士たちは主人の遺志を継いだ忠臣です。大勢で討ち入ったのはその志を遂げるためのしかたがない手段です。しばらくは大名預けとして何年か後に判決を出すのがよいと考えます。

**幕府直轄の学問所の林信篤の意見**

主君の仇討ちを果たした彼らは、武士道を実践して大いに褒められるものです。しかし、彼らが天下の法を破ったことは間違いありません。これは道理に背くものです。

**綱吉の老中に仕えた儒学者 荻生徂徠の意見**

浅野が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではありません。そのため、吉良は浅野の仇ではありません。浅野は、一時の怒りからして吉良を殺そうとしたので、浪士たちの行動は、主君のこの「邪志」\*を継いだものであって、忠義とはいえないでしょう。 \*間違った思いや考え

**多面的・多角的に考えてみよう**

**整理しよう** ①あなたが、將軍綱吉だったとして、幕府内の意見と資料1・2を読んで、浪士に対して助命する意見と厳罰にする意見を、その根拠を示して整理してみよう。

	主な意見	その根拠
助命		
厳罰		

**考えよう** ②あなたが、当時の江戸の人であったら、なぜ赤穂浪士をたたえたのか、その理由を考えてみよう。

わたしが赤穂浪士をたたえた理由は、  
( ) からです。

特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」を3か所設けています。本文ページと関連した歴史的事象をテーマに、異なる意見や資料を通して多面的・多角的に考察することで、思考力・判断力・表現力を育みます。

**技能をみがく** 資料を基に、当時の人々の考え方を理解する

当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料を基に、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

**資料1 赤穂事件の概要**

**1701(元禄14)年 松の廊下事件**  
赤穂藩主浅野内匠頭長矩が、江戸城の松の廊下で、吉良上野介義央を切りつける。  
→浅野内匠頭長矩は即日切腹。赤穂藩は改易(廃藩)となる。吉良上野介義央は、処罰はなし。

**1702年12月14日 赤穂事件**  
旧赤穂藩の浪士たちが吉良邸に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取る。

**赤穂浪士をよんだ歌**  
たのもしや内匠の家(浅野内匠頭)に内蔵(大石内蔵助)があつて、武士の鏡(鑑、手本)を取り出してきた。

**武家諸法度 天和令**  
一、学問・武道と忠義・孝行に励み、礼儀正しくふるまふこと。  
一、謀反を計画したり、仲間(徒兇)を集めて行動を起こす誓約を結ぶことを禁止する。  
一、喧嘩や口論はしないようにし、私的な争いを禁止する。もし、やむを得ない理由があれば、奉行所に届けて指示を待つこと。

**資料2 武家諸法度の方針の変更**

**武家諸法度(天和令)** 徳川綱吉は、それまでの武家諸法度の最初の一文であった「文武弓馬の道に、ひたすら励むこと」(→p.113)を改め、「忠義と孝行に励むこと」を強調しました。このほかにも儒学を重視するなど、学問や礼節を重んじる政治へと転換を行いました。

**話し合ってみよう**

④下の資料の、実際の幕府の処罰を読んでみよう。そして、あなたの考えとどの点に相違があったのか、確認してみよう。⑤なぜ、幕府は浪士たちに、全員「切腹」という処罰を決定したのだろうか。その理由を綱吉が目指した政治の考えを基にして、グループで話し合ってみよう。

**幕府の赤穂浪士に対する処罰**  
浪士たちは、主人の仇に報いると主張して、浪士たちで徒党を組み、吉良邸へ押し込み、飛び道具などまで持参し、吉良義央を討つことは、幕府を恐れぬ行動で、法に背いた行為である、これによって切腹を命じる。

**掲載ページ一覧 (3か所)**

※太字：ここで扱っているページ

ページ	タイトル
p.144-145	赤穂事件を考察する
p.188-189	『三酔人経綸問答』を考察する
p.230-231	『母性保護論争』を考察する

**当時の人々の意見**

▶ テーマを受けて、相対立する意見を具体的に見ていき、多面的・多角的に考察するきっかけにしています。ここでは、赤穂事件をめぐって、どのような意見があったのかを具体的に示しています。

**考えを深めるアクティビティ**

▶ 論点の整理→自分なりの考察→話し合いというように段階的に自分の考えを深めていくなかで、思考力・判断力・表現力を育みます。

# 日本の歴史がよりよくわかる世界の歴史 日本と世界の歴史の関わりが一望できるイラスト世界地図

地図とイラストによるイラスト世界地図を新設し、日本の歴史を世界の動きのなかに位置付けて見ることができます。

地図掲載ページ一覧 ※太字: ここで扱っているページ

ページ	タイトル
p.42-43	奈良時代のころの世界
p.98-99	16世紀初めごろの世界
p.156-157	欧米諸国の世界進出



## やってみよう

1. 地図の中から、下に挙げたA~Cを探してみよう。また、その人々がどの宗教を信仰しているか、考えてみよう。

**A** 皇帝に冠を授ける教皇 

ヒント →p.94

**B** メッカに向かって礼拝する人 **ヒント** →p.23

**C** 海を渡る僧侶 **ヒント** →p.46

2. 地図の中から、このコップを作っている人と、コップを持つ人を3人以上探して、ペルシャから日本まで地図をたどってみよう。



**1** 瑠璃杯 西アジアのペルシャで作られたといわれています。(正倉院宝物)

**2** 奈良時代のころの世界

**3** 地図をよく見るためのキーワード

- ・仏教→p.22
- ・キリスト教・イスラム教→p.23
- ・シルクロード→p.19
- ・唐の都 長安→p.40
- ・正倉院→p.45
- ・遣唐使→9
- ・鑑真→p.46
- ・聖武天皇→p.45

ツンドラ  
針葉樹林  
広葉樹林  
地中海性樹林  
草原  
砂漠  
熱帯雨林  
山岳地域林

シルクロード  
シルクロードにつながる道  
草原の道  
海の道



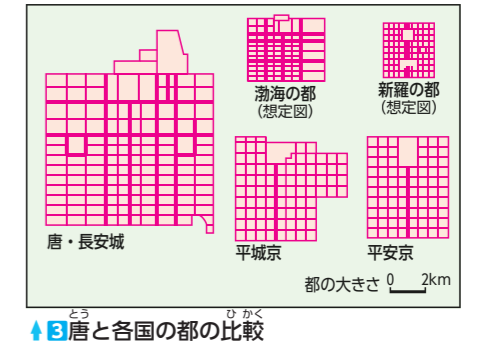
タイムトラベル同様、地図帳のさくいん記号のように記号を使って位置を確認できます。

## 4 大陸の影響を受けた天平文化

**学習課題** 奈良時代にはどのような特色を持った文化が展開したのだろうか。

**唐中心の国際関係と栄える東西交流** 日本の国づくりに際しては、唐を手本とするため、7世紀以降、盛んに遣唐使が派遣されました。同じく、東アジアの各国が唐を訪れて、大陸の東側に大帝国を築いた唐の政治のしくみや進んだ文化を学び取るようになりました。こうして8世紀の東アジアでは、唐を中心とした国際関係

が安定するなかで、漢字を通じた共通の文化が広がりました。さらに8世紀には、大陸の西側でイスラム教徒の王朝が大帝国を築き、日本とも接しました。貿易が盛んな都市で生まれたイスラム教の商人は、砂漠や海で長い距離を移動するための知識や技術にたけており、唐にも訪れたほか、分裂したローマ帝国とも貿易していました。そのため、ユーラシア大陸を東西に文物が行き交い、東の長安と西のバグダッドが国際都市として栄えました。



**特色** **4** **日本の歴史がよりよくわかる世界の歴史**  
**日本と世界の歴史の関わりがよくわかる本文** 近代を例に

**世界** 近代国家に見られる特徴

- 概論** p.148,154
- ① 自由で平等な社会
  - ② 工業の発展
  - ③ 徴兵制による国民軍
  - ④ 根強く残る差別

- 具体事例** p.148-155
- イギリス：市民革命・産業革命 ●アメリカ：独立戦争・南北戦争
  - フランス：フランス革命 ●ドイツ：ドイツ帝国成立 など

**第4章 近代(前半)** **近代国家の歩みと国際社会**

**第1節** **欧米諸国における「近代化」**

**第1節の問い** 「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。

**権利の章典(1689年)**

1. 国王は、議会の承認なく法律を停止することはできない。
9. 議会における言論の自由は、守られなくてはならない。
13. 議会はしばしば開かれなくてはならない。

(一部要約・抜粋)

**解説 近代の政治体制**

君主政治	立憲君主政	共和政
国王や君主の権力があるが、法に基づいて政治を行う	国王や君主の権力が制限され、国民が政治を行う	国民が政治を行う

自由で平等な「市民」、工業の発達による資本主義社会の誕生など「近代国家」を理解する上で重要な概念を丁寧に解説しています。

**1** **市民革命の始まり**

**学習課題** イギリスでの革命や、アメリカでの独立戦争によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。

**変わる欧米諸国** 日本の江戸時代にあたる17~19世紀は、ヨーロッパが大きく変化した時代でした。政治では、身分制が廃止されたり、専制君主政を抑えたりすることで、**① 自由で平等な「市民」**が、法の支配に基づいて政治を行う「市民社会」に変わり始めました。それにより、これまで国王と支配身分だけが政治を進めてきたのに対し、市民たちがそれらを倒して主権者となり、議会を通じて国家を運営することもありました(市民革命)。産業では、工業が発達して資本主義社会が生まれました。こうした政治や産業の動きを併せて、「近代化」とよびます。

**4** **欧米諸国の近代国家建設**

**学習課題** アメリカ・ドイツ・ロシアで、それぞれどのように近代国家の建設を進めたのだろうか。

**近代国家と「国民」の創出** 19世紀に入ると、産業革命やフランス革命の影響を受けて、ヨーロッパや北アメリカの国々では、自由・平等の考えの下に人々を「国民」として一つにまとめる近代国家の建設が進められました。近代国家では、徴兵制を通じて「国民軍」が作られ、学校や職場を通じて「国民」にふさわしい共通の言語や生活のしかたが広められました。④ その一方で、人種・民族・宗教・文化などを背景に、「国民」から除外される人々もいました。

近代の冒頭の本文では、世界の「近代国家」に見られる一般的な特徴を端的にまとめています。近代化の特徴をつかんだ上で欧米諸国の歴史を学ぶことで、近代日本の国家建設についてよりよく理解することができます。

**日本** 日本の近代国家建設

- ① 自由で平等な社会
  - ② 工業の発展
  - ③ 徴兵制による国民軍
  - ④ 根強く残る差別
- 身分制の廃止      殖産興業      徴兵令      「解放令」後も残った差別

**富国強兵の政策** 新政府は、欧米諸国に劣らない強い国をつくるためには、国を豊かにして力をつけ、強い軍隊をもつ必要があると考え、富国強兵の政策を進めました。この政策の中心となったのは、**② 産業の発展による経済力の向上(殖産興業)**、西洋式の軍隊づくり(徴兵令)、改革のために必要となる財源を安定させる税制度の改革(地租改正)、そしてこれらの改革を担う人材を養成するための教育制度の採用(学制)でした。

**殖産興業** 新政府は、まず「富国」のため、お雇い外国人とよばれた外国人技術者や学者を招きました。欧米の進んだ技術や機械を取り入れ、各地に製糸・紡績などの官営工場や軍需工場を造り、近代的な産業を育てようとしたのです(殖産興業)。

通信の分野では、1869(明治2)年、東京・横浜間に電信が開通しました。1871年には前島密らによって郵便制度が作られ、全国均一の料金で郵便が利用できるようになりました。また、交通の分野では、翌72年に新橋(東京都)・横浜間、続いて神戸・大阪・京都間に鉄道が開通しました。鉄道は各地を結び付け、多くの人や物

**徴兵令の発布** 新政府は「強兵」のためには、それまでの武士中心の軍隊ではなく、**③ 国民による西洋式の軍隊をつくる必要があると考えました**。1873年に徴兵令を出し、満20歳になった男子から徴兵を行いました。しかし、多くの徴兵免除の規定があったため、実際に兵役に就いた人の多くは、農家の次・三男た

**古い身分制の廃止** 新政府はまた、江戸時代までの身分制を廃止し、天皇の一族を皇族、公家や大名を華族、武士を士族とし、**① 百姓・町人を平民**としました。平民も正式に名字を名乗ることが許され、異なる身分間での結婚や、職業・居住などの自由も認められました。また、1871年の布告(いわゆる「解放令」)によって、江戸時代に差別された人々の呼び名が廃止され、身分・職業も平民と同じとされました。これにより古い身分制はなくなりましたが、国民全体がすぐに平等になったわけではありませんでした。新政府は、差別されていた人々の生活を改善する具体的な政策をとらず、長く続いた慣習や差別意識も簡単には改まらなかったので、結婚・就職・居住などに関する差別は根強く残りました。

**+α アルファ** **人物コラムでも世界と日本の関連を意識**

**ビスマルク** 1815~98

**明治の日本の手本となった宰相**

ビスマルクは、ドイツ皇帝の権力が強い憲法を作る一方、工業化による急速な経済発展を実現しました。伊藤博文(→p.186)は岩倉使節団(→p.178)の一員としてビスマルクに会い、その政策に感心し、ドイツを模範とする国づくりを目指しました。

▶世界史部分の人物コラムでも、日本の歴史との関連を意識しています。ここでは、ドイツが日本の国づくりに影響を与えたことに触れています。

▶p.155

**+α アルファ** **差別と闘った人を取り上げたコラム**

**未来に向けて** **人権 差別からの解放運動**

江戸時代に差別された人々は、平民身分となる「解放令」を喜んで迎えたが、それに反対する人も多く、差別された人々を襲撃する一揆も起こりました。「解放令」のあと、主な仕事であった皮革業にほかの人々が参入したことにより、差別された人々の生活は一層厳しくなりました。それでも彼らはひるまず、国民としての平等を求め、解放運動を進めました(→p.223)。

総人口	約3313万人
皇族・華族・士族	5.5%
平民	93.6%
旧神官・僧	0.9%

▶コラム「未来に向けて」では、差別が残ったことだけでなく、差別と闘い平等を求める運動に立ち上がった人々がいたことを扱っています。

▶p.171

# 5 知識・技能を確実に習得する工夫

## 知識の習得を助ける工夫

**第2節 高まるデモクラシーの意識**

第2節の問い p.220~227

なぜ、第一次世界大戦後、民主主義的な考え方が広まったのだろうか。

**1 護憲運動と政党内閣の成立**

第一次世界大戦の影響によって、日本の政治や経済はどのように変化したのだろうか。

**日本経済の急成長**

第一次世界大戦中に世界経済で力を伸ばしたのが、戦場とならなかった日本とアメリカでした。

日本では、戦争に必要とされた船舶や鉄鋼などを生産し、重工業が急成長しました。これによって、輸出額が輸入額を上回り、貿易

**護憲運動と民主主義**

日本では日露戦争の後、政党を中心とした内閣が成立しましたが、藩閥の勢力は依然として強いま

でした。1912(大正元年)には、立憲政友会を基礎とした内閣が陸軍の反対で倒れ、陸軍や藩閥に支持された桂内閣が成立しました。この状況に対して、憲法の精神に基づき政治を守り、民衆の考えを反映していこうという運動(護憲運動)が起こりました。その中心となったのが、立憲国民党の大隈重信と、立憲政友会の尾崎行雄らでした。そして翌13年、桂内閣は辞職に追い込まれました。護憲運動で内閣が倒れたのは、議会の開設以来、初めてのことでした。

第一次世界大戦から戦後にかけて、民主主義を求める動きが世界中に拡大しました。日本では、政治学者の吉野作造が民本主義を唱え、政治に民衆の考えを反映すべきだと主張しました。この主張は、青年をはじめ、多くの人々に影響を与えました。法学者の美濃部達吉は天皇機関説を唱え、憲法論で政党政治を説きました。

第一次世界大戦中から戦後にかけて、民主主義を求める動きが世界中に拡大しました。日本では、政治学者の吉野作造が民本主義を唱え、政治に民衆の考えを反映すべきだと主張しました。この主張は、青年をはじめ、多くの人々に影響を与えました。法学者の美濃部達吉は天皇機関説を唱え、憲法論で政党政治を説きました。

**米騒動**

米騒動は古来の米騒動を繰り返したもので、多くの労働者も参加し、以後、社会運動が高まりました(→p.223)。(米騒動絵巻 名古屋市 徳川美術館蔵)

取寄が赤字から黒字になりました。この好景気(大戦景気)のなかで、税金と、借入れ金増えが働き手1人 中々開始以来、日本経済の由

こ三井・三菱などの財閥もさらに力を付けました。

一方で、好景気は物価の上昇を招き、それに賃金の上昇が追いつかず、庶民の生活は苦しくなりました。また、大戦中に工業国になった日本では、工業生産額が農業生産額を追い越しました。都市が発展して食料の消費量も増えました。そこへシベリア出兵が決定し、軍が大量の米を輸入すると予想した商人たちが米を買い占めたために、米の値段が急激に上がって米不足が進みました。

**米騒動と政党内閣の成立**

1918年7月、富山県の漁村の主婦が、米の買外への積み出しに反対し、安売りを要求しました。この動きは翌8月になると、米屋などが襲われる米騒動となり、すぐに京都・名古屋・神戸・東京など全国の都市に広がりました。政府は米騒動をしめようとして、警察だけではなく軍隊を出動させました。また、政府が朝鮮や台湾で米を買い集めたため、これ

こうしたなか、政府への批判が高まって軍人出身の首相が辞職し、同18年9月、立憲政友会の原敬が内閣を組織しました。原内閣は、大部分の閣僚を衆議院の第一党である立憲政友会の党員が占める、初めての本格的な政党内閣でした。米騒動で示された世論の力の大きさを背景とした同内閣は、宮中、貴族院、軍や植民地にまで影響力を及ぼしました。選挙権の拡張や、陪審制導入による裁判への民意の反映、国際協調外交の推進など、強い指導力を発揮しました。

**原敬**

1856~1921

(平民宰相)とよばれた首相

原敬(岩手県)の藩士の子として生まれました。東京でフランス語や法律を学び、新聞記者・外交官などを経て、立憲政友会に参加し、政治の道に入りました。1918年、内閣総理大臣になり、軍部でも藩閥出身でないことから「平民宰相」とよばれました。原内閣は、インフラ整備や学校の増設などで地方の有識者からの支持を得て、それを基に当時まだ力を持っていた立憲有識者(→p.186)や軍と近い関係ながら、政党政治の発展を強化しました。しかし1921年、東京駅で青年に襲われて亡くなりました。

**本文と連動した資料**

▶ その時代の様子がわかる絵画や写真、歴史の舞台がわかる地図などを、本文と関連付けることで理解が深まります。

本文に **図番号** を示し、本文と資料の関連付けをしやすくしています。

**因果関係がわかる本文**

▶ 出来事の因果関係がわかる記述にしています。例えば、現行の教科書に比べて、政党内閣の誕生には世論が及ぼした影響が大きかったことについての記述を充実させています。

こうしたなか、政府への批判が高まって軍人出身の首相が辞職し、同18年9月、立憲政友会の原敬が内閣を組織しました。原内閣は、大部分の閣僚を衆議院の第一党である立憲政友会の党員が占める、初めての本格的な政党内閣でした。米騒動で示された世論の力の大きさを背景とした同内閣は、宮中、貴族院、軍や植民地にまで影響力を及ぼしました。選挙権の拡張や、陪審制導入による裁判への民意の反映、国際協調外交の推進など、強い指導力を発揮しました。

記述が増えた部分

**今までの記述**

こうしたなか、政府への批判が高まり、軍人出身の首相が辞職しました。そして同18年9月、米騒動で示された民衆の力の大きさを背景に、立憲政友会の原敬が内閣を組織しました。原内閣は、大部分の閣僚を衆議院の第一党である立憲政友会の党員が占める、初めての本格的な政党内閣でした。

**現行版** p.205

**歴史学習をサポートする「解説」**

▶ 概念や理解しやすい用語を丁寧に解説しています。

**解説 民本主義**

大日本帝国憲法の下、主権がどこにあっても、民衆の考えに基づき、政党や議会を中心とした政治を行うことが可能であるとする考えです。政党政治を理論面で支えました。

**吉野作造** (1878~1933)

**解説 寄進**

寄進とは、土地や財産等を寄付する行為をいいます。武士となった地方の有力者たちは、開発した土地を貴族や大寺社に寄進しました。後に院が寄進を受けた貴族や大寺社に対して荘園を新しく認めただことで、周辺の未開地や公領を囲い込んだ広大な荘園が誕生しました。

**解説 社会契約説**

ロックは、社会は基本的人権を持つ個人どうしの契約で成り立ち、政府もその個人との契約の下につくられるべきと説きました。→ **6** ロック(1632~1704) 主な著作は『統治二論』です。

**解説 掲載ページ一覧(54項目)** ※太字:ここで扱っているページ

ページ	タイトル	ページ	タイトル	ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.4	古代	p.79	蝦夷地	<b>p.151</b>	<b>社会契約説</b>	p.193	租借
p.4	中世	p.86	下剋上	p.151	三権分立	p.196	保護国
p.4	近世	p.95	カトリックとプロテスタント	p.151	人民主権	p.213	社会主義と共産主義
p.4	近代	p.96	香辛料	p.151	民主主義	p.213	民族自決
p.4	現代	p.98	植民地	p.154	保護貿易と自由貿易	p.214	委任統治
p.19	朝貢	p.105	太閤	p.158	モノカルチャー経済 <b>New</b>	<b>p.220</b>	<b>民本主義</b>
p.36	摂政	p.106	百姓	p.162	専売制	p.234	計画経済と自由経済
p.39	天皇	p.113	旗本と御家人	p.165	関税自主権と領事裁判権	p.235	ファシズム
p.51	征夷大將軍	p.116	オランダ風説書 <b>New</b>	p.179	国際法	p.236	軍部 <b>New</b>
<b>p.60</b>	<b>寄進</b>	p.134	貨幣経済	p.184	自由民権	p.236	軍国主義
p.62	院政	p.135	商品作物	p.185	豪農	p.260	保守的と革新的
p.74	悪党と御家人	p.148	近代の政治体制	p.186	枢密院	p.277	マスメディア
p.74	公家と武家	p.148	市民革命	p.190	列強	p.279	テロ
p.76	勘合					p.280	連立政権

# 5 知識・技能を確実に習得する工夫 技能の習得を助ける工夫

## 「技能をみがく」

▶「歴史的な見方・考え方」を働かせる上で必要な「技能」を体系的に身に付けられます。

### 技能をみがく 1 年代や時代を結び付ける

人物が活躍した時期や出来事が起こった年は、西暦・元号・世紀のほか、時代でも表現されます。出来事の起こった年などが、何世紀で、何時代なのかを結び付けられると、歴史の学習で役立ちます。

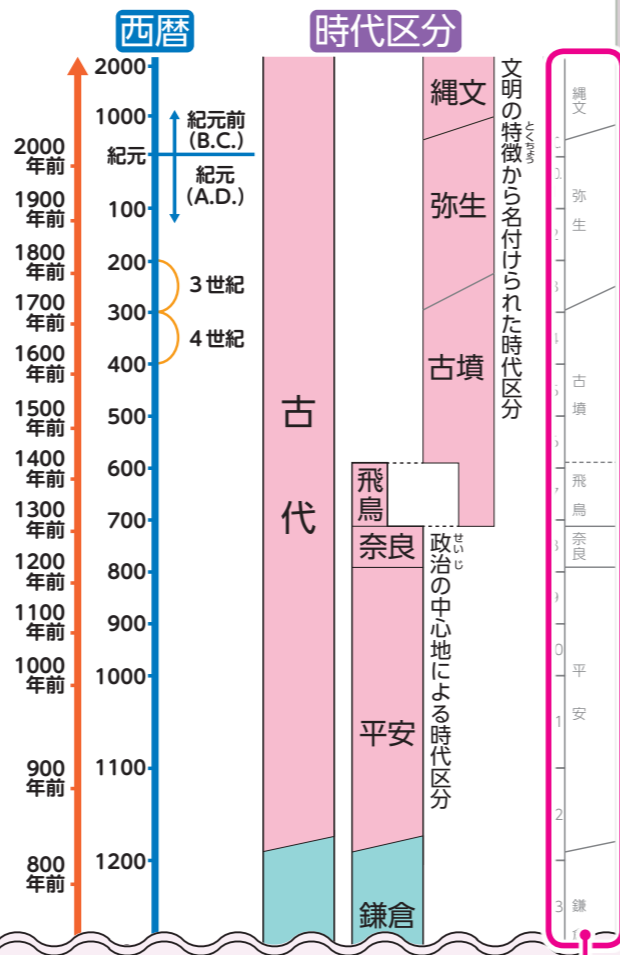
#### やってみよう

1 次の西暦は何世紀で、日本では何時代だったか答えよう。

- ① 894年 世紀… 世紀 時代… 時代
- ② 1700年 世紀… 世紀 時代… 時代

2 小学校で学習した、4人の人物が生きた時代や世紀はいつなのか、右の時代区分の表も参考にしながら答えよう。

- ① 聖徳太子 574年～622年  
世紀… 世紀から 世紀  
時代… ( 縄文 ・ 弥生 ・ 飛鳥 ) 時代  
( 古代 ・ 中世 ・ 近世 ) の人物
- ② 源頼朝 1147年～1199年  
世紀… 世紀  
時代… ( 平安 ・ 鎌倉 ・ 室町 ) 時代  
※○は1つとは限らない。  
( 古代 ・ 中世 ・ 近世 ) の人物

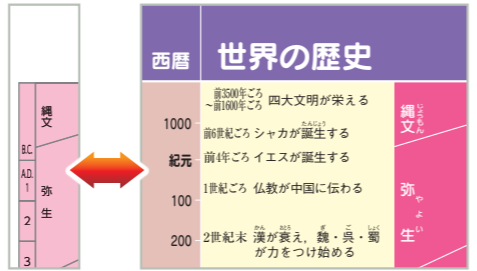


▶ p.5  
やってみよう

技能を着実に身に付けるための作業を提示しています。

### 年表インデックス

- ▶ ページの右端には年表インデックスを設置し、学習しているページがどの世紀・時代にあたるのかが一目でわかります。
- ▶ 下の写真のようにページの年表インデックスと巻末の世界史年表を対応させると、世界でどんな出来事が起こっていた時代なのかがわかります。



▶ p.27

## 技能をみがく 掲載ページ一覧(12テーマ) ※太字:ここで扱っているページ

番号	ページ	タイトル	番号	ページ	タイトル
1	p.5	年代や時代を結び付ける	7	p.38	しくみ図の見方
2	p.7	情報の集め方	8	p.52	絵巻物の見方
3	p.8	地図の作り方・年表の作り方	9	p.145	資料を基に、当時の人々の考え方を理解する
4	p.9	野外・聞き取り調査のしかた	10	p.189	当時の立場になって選択し、判断する
5	p.10	レポートのまとめ方、発表のしかた	11	p.231	歴史的な背景を踏まえて、問題の解決を考える
6	p.37	系図の見方	12	p.249	情報の意図を読み解く

### 技能をみがく 8 えまきもの 絵巻物の見方

絵巻物は、絵の場面と文字の場面を交互に見ながら読み進めます。横に長い絵は空間の変化だけでなく、時間の流れを表すものもあります。また、上から眺めているような角度から描かれ、天井がなく中が見えるようになっているものもあります。絵巻物は当時の暮らしぶりや、建物の構造などを読み取ることができるため、大変貴重な資料です。

▶▶ p.52



特色 5

### 「資料活用」

- ▶ グラフや写真、表などの資料には、読み取りの視点として「資料活用」を適宜設置しています。

移住者によってつけられた地名  
伊達(宮城県出身者)  
北広島(広島県出身者)  
京極(旧丸亀(香川県)藩主京極高徳)  
新十津川(奈良県出身者)

北海道の地名の由来  
資料活用 地図帳で、上記の都市を探してみよう。また、他のアイヌ語由来の地名を探してみよう。

▶ p.181

年	国名
1893	ニュージーランド
1917	ロシア(ソ連)
1918	イギリス
1919	オーストリア、ドイツ、オランダ
1920	アメリカ
1944	フランス
1945	日本、イタリア、インドネシア
1947	中国
1948	韓国
1971	スイス

以前から選挙権を持つ男性有権者数 約840万人  
新たに選挙権を獲得した男性有権者数 約460万人  
選挙権を獲得した女性有権者数 約840万人  
有権者数合計 約2140万人  
有権者数のうちわけ(イギリス1918年)、「イギリス史」ほか) 資料活用  
選挙権をもつ人口のうち、女性占める割合はどれくらいだろうか。

▶ p.215

# 社会科3分野共通の特色

## ① 3分野の関連を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での関連や、地図帳、小学校との関連を図っています。また、共通で防災・領土・SDGsを重視しています。

### 1 主体的・対話的な学びを促す「導入」

写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

**歴史** 「タイムトラベル」  
教科書p.48-49など



**地理** 「写真で眺める南アメリカ州」  
教科書p.108-109など



**公民** 「学習の前に」  
教科書p.27-28など



本資料 p.5-14

### 2 単元を貫く「章(節)の問い」

章(節)のまとめりに「問い」を設け、見直しをもって学習に取り組みます。

**歴史** 「節の問い」  
教科書p.94など

第1節の問い p.94~101  
ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。

**地理** 「節の問い」  
教科書p.50など

第1節の問い p.48~63  
アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのだろうか。

**公民** 「節の問い」  
教科書p.127など

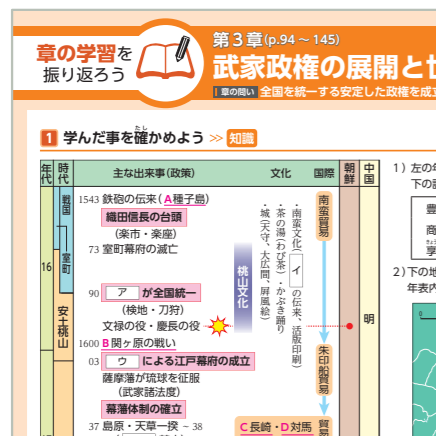
第3節の問い p.127~142  
経済活動を活発にしたいために、企業はどのような役割や責任を果たすべきなのだろうか。

本資料 p.25-26

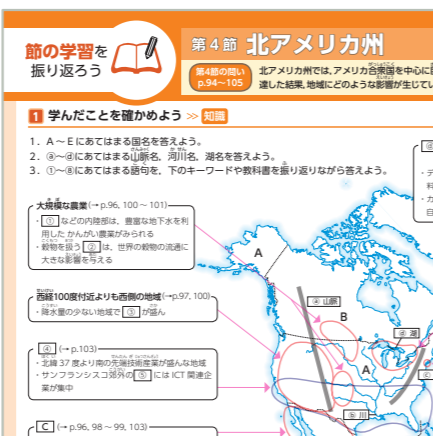
### 3 深い学びに導く「章(節)の学習を振り返ろう」

章(節)を通して得た知識および技能を生かして課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を育み、深い学びにつなげられます。

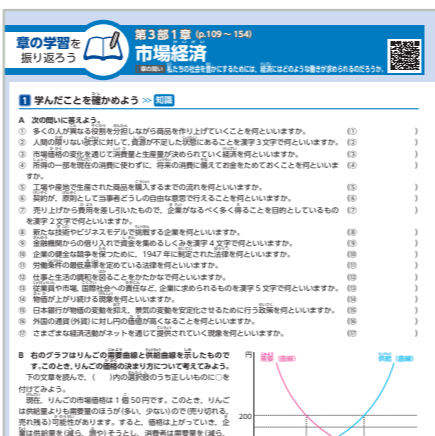
**歴史** 「章の学習を振り返ろう」  
教科書p.146-147など



**地理** 「節の学習を振り返ろう」  
教科書p.106-107など



**公民** 「章の学習を振り返ろう」  
教科書p.155-156など



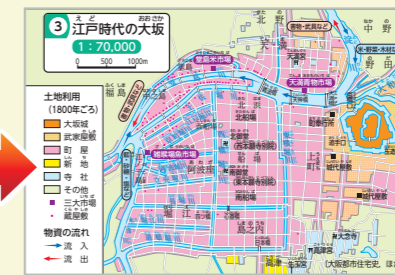
本資料 p.29-30

## +α アルファ 地図帳との関連

▶ 地図帳との関連付けにも配慮しています。

大阪は、「天下の台所」といわれ、商業の中心でした。大阪には、諸藩の蔵屋敷が置かれ、全国から集められた大量の年貢米や特産物が運び込まれて、米や特産物の取り引きが行われました。

▶ p.129



▶ 地図帳p.103

「天下の台所」といわれた大坂(大阪)の様子がわかります。

### 4 毎時間の学習における「問い」

▶ 章(節)の「問い」を受けて、見開きで「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、毎時間で学習の到達点を確認できるようにしています。

本資料 p.27-28

**歴史**

本文ページ  
教科書p.132-133など

**地理**

本文ページ  
教科書p.100-101など

**公民**

本文ページ  
教科書p.141-142など

### 5 各所で働かせている「見方・考え方」

▶ 深い学びのカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章(節)末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所で見かせることができます。

本資料 p.11-12, 29-30

**歴史**

教科書  
p.12,147など

**地理**

教科書  
巻頭7,p.107など

**公民**

教科書  
p.18-20,156など

### 6 小学校との関連を図る工夫

▶ 小学校での既習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、小学校の学習事項を提示したりしています。

本資料 p.7-8

**歴史**

「小学校・地理・  
公民との関連」  
教科書p.100など

**地理**

「小学校・歴史・  
公民との関連」  
教科書p.214など

**公民**

「小学校・地理・  
歴史との関連」  
教科書p.55など

### 7 防災意識を育む工夫

▶ 地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めるようにしています。

本資料 p.24

**歴史**

「未来に向けて」  
教科書p.87,227など

**地理**

「日本のさまざまな  
自然災害」  
教科書p.148-149など

**公民**

「防災備蓄倉庫の新  
設を考えてみよう」  
教科書p.17など

### 8 我が国の領土への理解を深める工夫

▶ 地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、我が国の領土について詳しく理解できるようにしています。

本資料 p.55

**歴史**

「日本の領土画定と  
近隣諸国」  
教科書p.266-267など

**地理**

「日本の領域と  
その特色」  
教科書p.18-19など

**公民**

「領土を巡る  
取り組み」  
教科書p.175-176など

### 9 SDGsへの意識を育む工夫

▶ 地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題として、SDGsについての理解が深まるようにしています。

本資料 p.24

**歴史**

「多面的・多角的に構  
想する-未来に向けて」  
教科書p.286-287など

**地理**

「地域の在り方を  
考える」  
教科書p.234など

**公民**

「国際社会のより  
よい発展」  
教科書p.195-196など

### 10 地図の活用を促す工夫

▶ 小中高を通じて空間的な認識を高めるため、特に地図は豊富に掲載しています。

本資料 p.33-34

**歴史**

「欧米諸国の  
世界進出」  
教科書p.156-157など

**地理**

「近畿地方」  
教科書p.203など

**公民**

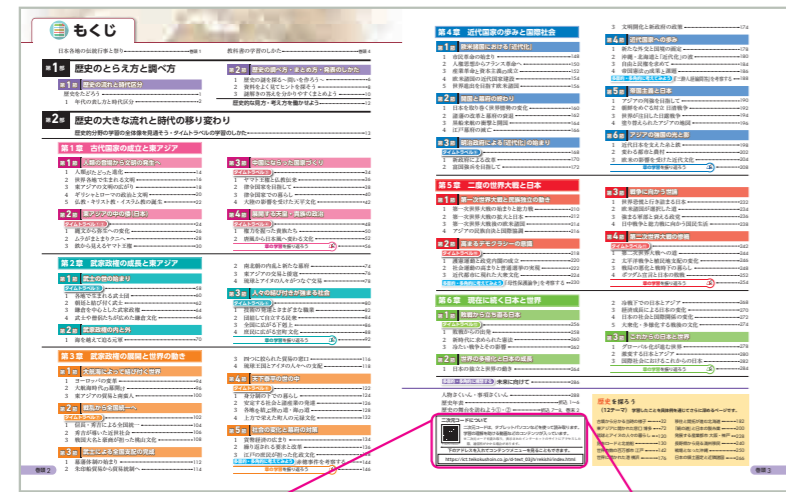
「沖縄からの距離」  
教科書p.185など

共通の特色

# 社会科3分野共通の特色

## ② 二次元コード コンテンツ

■ アクセス先には、学習を支援するさまざまなコンテンツを収録しています。



■ 巻頭2-巻頭3

歴史的分野は、  
二次元コード計**26**か所、  
コンテンツ全**127**点  
収録しています！



■ 二次元コードのメニュー画面

### 二次元コードについて

二次元コードは、タブレットパソコンなどを使って読み取ります。学習の理解を助ける動画などのコンテンツが入っています。

※二次元コードを読み取り、表示されたインターネットのサイトにアクセスした際、通信料がかかる場合があります。

アドレスを入れてコンテンツメニューを見ることができます。

[http://ict.teikokushoin.co.jp/d-text\\_03jh/rekishi/index.html](http://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_03jh/rekishi/index.html)

読み込むと…

1

### 「タイムトラベル」コンテンツ

▶ 「タイムトラベル」に二次元コードからアクセスできます。(12件)



2

### 「タイムトラベル年表」コンテンツ

▶ 「タイムトラベル」全12時代のイラストを年表のようにひとつなぎで見ることができます。(1件)



3

### 「巻物年表」コンテンツ

▶ 教科書折込の歴史年表を巻物のようにひとつなぎで見ることができます。(1件)



4

### 学習を振り返ろう「知識」

▶ 「章の学習を振り返ろう」の知識部分の解答を確認できます。(6件)

5

### NHK for School(動画)

▶ 学習内容に関連したコンパクトな動画を収録しています。(107件)



### 歴史的分野 「二次元コード」掲載ページ一覧

類	内容	教科書のページ	コンテンツ数
1	「タイムトラベル」コンテンツ	p.24, 34, 48, 58, 80, 102, 122, 168, 218, 242, 256	12
2	「タイムトラベル年表」コンテンツ	p.13	1
3	「巻物年表」コンテンツ	折込1	1
4	学習を振り返ろう「知識」	p.56, 92, 146, 208, 254, 284	6
4	NHK for School(動画)	p.14, 60, 94, 148, 210, 258	107

### ！ポイント

- ▶ タブレットなどでの学習や、自習用で有効に活用できます。
- ▶ 各ページのタイトルわきの二次元コードからも各コンテンツにアクセスできます。

第1章 古代 古代国家の成立と東アジア



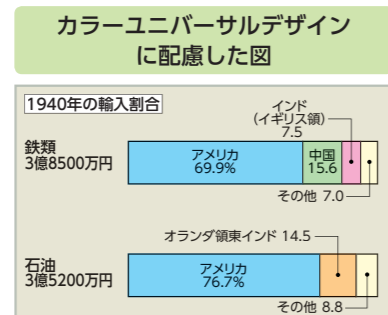
共通の特色

# 社会科3分野共通の特色

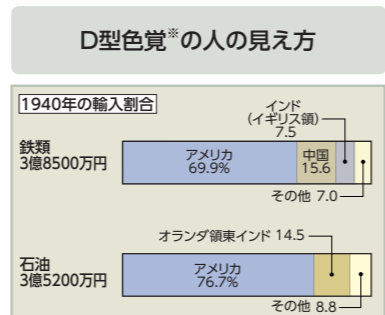
## ③ 特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮

### 1 カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

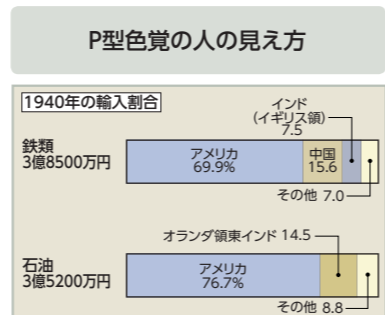
すべての生徒にとってグラフや資料が読み取りやすいよう、色覚特性をもつ人が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置することを避けたり、境界線を黒ではっきりと書いたりしています。



■p.244 ■ 日本の資源の輸入先

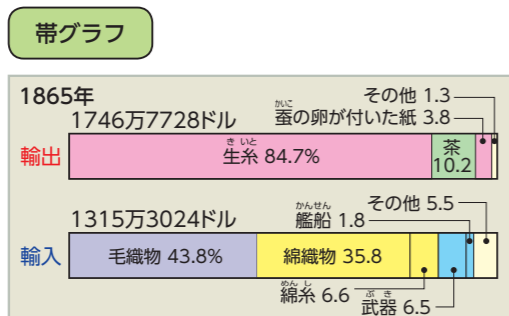


※色覚特性のD型とP型は、特性のなかでも代表的なものです。上の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

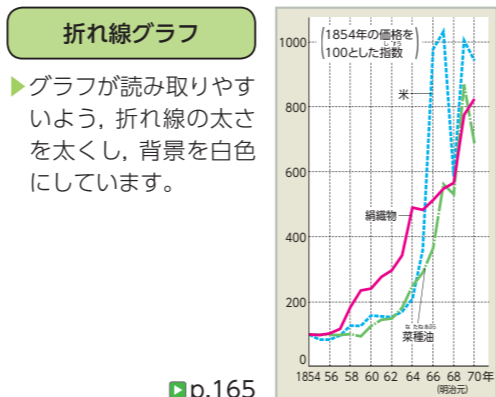


### 2 特別支援教育等に配慮した表現

どこまでが同一の資料であるのかがわかりやすいよう、図の周囲をグレーで囲んでいます。上の図の場合、二つの帯グラフがまとも一つ一つの資料を構成することがわかります。また、引き出し線の起点を明確にするため、黒点で表現しています。



■p.177



■p.165

### 3 読みやすく誤読を防ぐ文字

誤読を防ぎ、すべての生徒にとって読みやすくなるよう、見開きタイトル、本文、図版タイトルなどにはユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。

非UDフォント なまこなどの

UDフォント なまこなどの

- 文字の細い部分を太くして、見えやすくする。
- 紛らわしい画線をやめ、シンプルなデザインにする。
- 濁点部分のすきまを十分確保して視認性を高める。特に濁点のあるふりがなが読みやすくなっています。

非UDフォント 1946年11月3日

UDフォント 1946年11月3日

- 文字と線が判別しやすい。特に数字の「9」と「6」の区別や、数字の「3」とアルファベットの「S」などの区別がしやすくなっています。

### 4 学習単元がわかる工夫

- ▶ 現在学習しているのがどの章なのか一目でわかるよう、学習単元の章ごとに色を統一しています。
- ▶ 紙面の右端には年表インデックスを設け、学習している時代に章の色を示しています。



### 5 学習が進めやすい工夫

- ▶ レイアウトの違いによる生徒の混乱を防ぐため、導入資料や学習課題、振り返りの設問を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
- ▶ 「見通し・振り返り学習活動」がしやすいよう、「導入資料、学習課題(見通し)→本文→確認しよう、説明しよう(振り返り)」で見開きの展開を統一しています。

詳しくは本資料 p.27-28

すべての生徒にとって見やすくわかりやすい表現にしています。

### 軽さと丈夫さを求めた新用紙

- ▶ 新しく教科書専用の用紙を開発し、1ページあたりの紙の重さが現行版よりも約5%軽くなっています。増ページによる重さの負担を最小限に抑えています。
- ▶ 3年間の使用にも耐えられる堅牢な製本仕様になっています。



## サポート

### 特別支援教育のための教科書と地図帳

#### 『拡大教科書』(無償給与対象)

- ▶ 中学校用教科書の拡大教科書を発行しています。文字や資料を大きく目立たせ、レイアウトを見やすく改善しています。

#### ■ ページ数の比較 (平成28年度版中学校用歴史教科書の場合)

通常教科書	拡大教科書(7分冊)
全286ページ	全2529ページ

#### ■ 同サイズでの紙面の比較(例)



『拡大教科書』  
のご案内



#### 『みんなの地図帳』

～見やすい・使いやすい～(有料)

- ▶ 記載内容を大幅に精選し、文字の置き方や大きさ、色づかいなど、見やすくなるよう工夫されています。

日本視覚障害社会科教育研究会編集、帝国書院発行



『みんなの地図帳』  
～見やすい・使いやすい～  
のご案内



## デジタル

### 『デジタル教科書』(有料)

- ▶ デジタル教科書においても、特別支援教育に配慮した機能を搭載しています。

デジタル教科書の詳しい説明はp.47-48



# 教科書指導のサポート

## ① デジタル教科書・教材

※ラインナップやコンテンツ等、一部内容が変わる場合があります。最新情報は、右の二次元コードよりご確認ください。  
【中学校 社会科Webへ】



動作が速く、多彩な機能・コンテンツを収録した新ビューア「超教科書」を採用しています。

スムーズに動く新ビューア！



### 帝国書院のデジタル教科書・教材ラインナップ【有料】

#### ① 指導者用 デジタル教科書(教材)

- ▶ デジタル教科書とデジタル教材(コンテンツ)の一体型。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機能、コンテンツともに収録。

**+α** 5つの授業支援ツールを用意

#### ② 学習者用 デジタル教科書

- ▶ 紙の教科書と同一の内容を収録。
- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 右ページの特別支援教育対応機能を収録。

※②と③を購入することで、学習者用もデジタル教科書とデジタル教材(コンテンツ)の一体型として活用できます。

#### ③ 学習者用 デジタル教材

- ▶ 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- ▶ 教科書に準拠したコンテンツ集。

指導者用デジタル教科書(教材)に用意する

### 帝国書院 オリジナル 5つの授業支援ツール

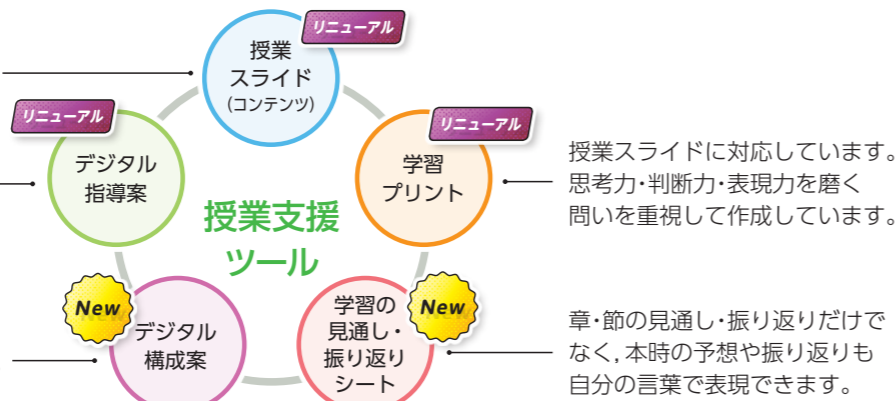
授業支援ツールの紹介動画はこちら  
【中学校 社会科Webへ】



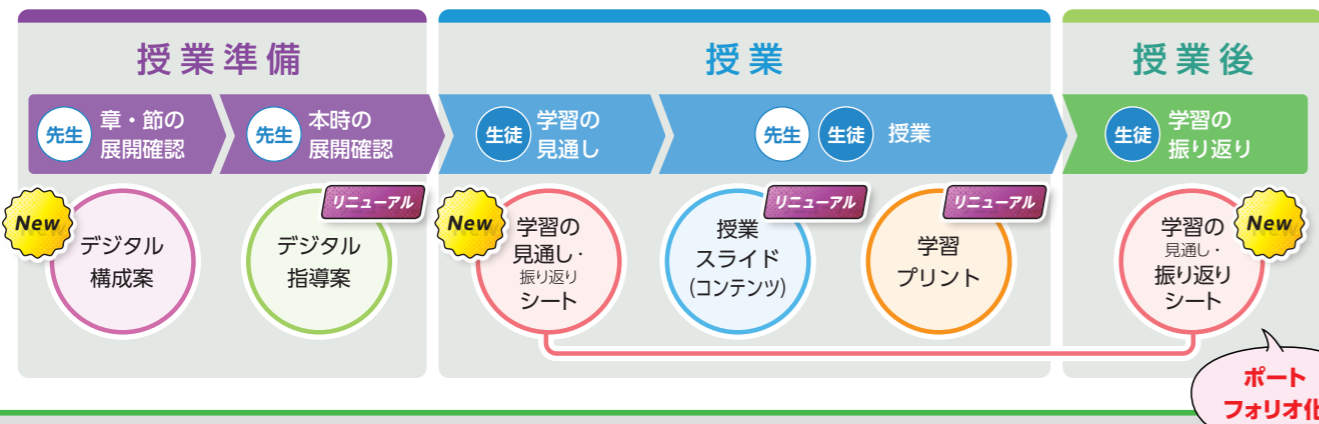
1時間の授業展開を10枚前後のスライドで構成し、コンテンツを有効活用した授業が実現できます。

提示資料をビジュアル化し、指導のポイントや問いを例示しています。

章・節の評価規準例や本時の目標・指導のポイントがひと目でわかります。



〈授業支援ツールを活用した授業展開イメージ〉



Webサイト上で体験できます!

Web体験版はこちら  
【中学校 社会科Webへ】



※地図帳や地理的分野、公的分野の各デジタル教科書と併せて体験ができます。

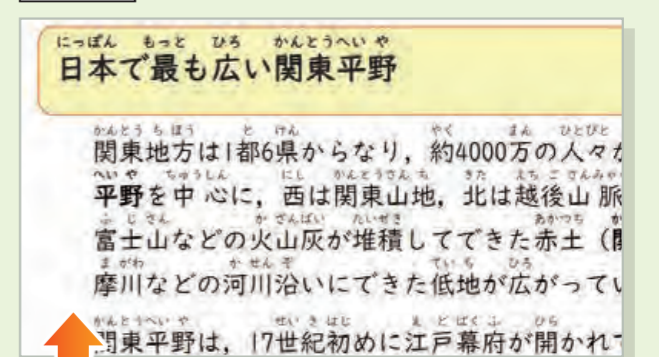
### 特別支援教育 対応機能

- ▶ リフロー表示\*や総ルビ、白黒反転、読み上げの機能を用意しています。以下に、リフロー表示におけるさまざまな機能を示しています。
- ※書体や文字サイズ、行間、余白などを自由に変更して表示する方式

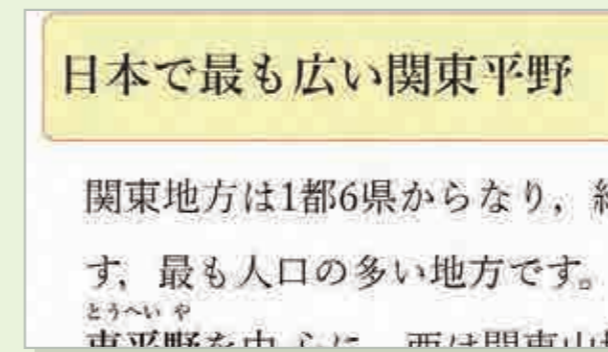
#### 通常のデジタル教科書の紙面 (地理を例に)



#### 総ルビ

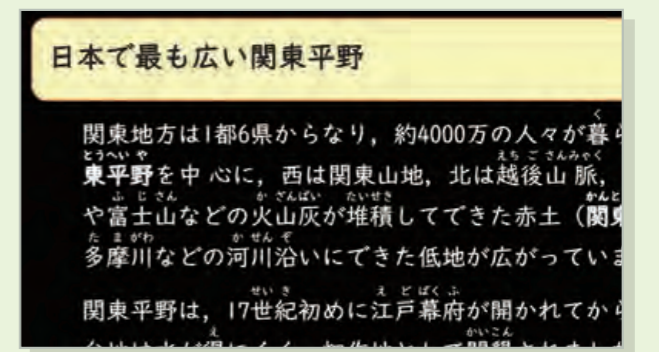


#### 書体, 文字サイズ, 行間, 余白の変更



※書体が明朝体、文字サイズ180%、行間1.2倍、余白1.5倍の場合

#### 白黒反転



読み上げ機能も付いています。リフロー経由でなく、通常のデジタル教科書の紙面に対しても総ルビ、白黒反転を用意しています。

実際の操作は、体験版で!

### おもなコンテンツ

- 「タイムトラベル」コンテンツ
- 動画クリップ集
- 「ここに注目」コンテンツ (風刺画や条文などの解説)
- 「章の学習を振り返ろう」年表
- 巻末年表(巻物形式) など

# 教科書指導のサポート

## ② 教師用指導書・指導者専用サイト・定期刊行冊子など

充実したさまざまなサポートを用意しています。

### 教師用指導書【有料】(令和3年3月発行予定)

教科書に準拠した指導書で授業をサポートします。

1



指導用教科書(朱書き)編のイメージ  
(画像は平成28年度版)

教師用指導書のご案内  
(令和2年5月頃公開予定)



### 指導書の内容

- 1 指導用教科書(朱書き)編
- 2 指導・評価計画編
- 3 学習プリント
- 4 タイムトラベルワークシート
- 5 Webサポート

※一部内容が変わる場合があります。

2



指導・評価計画編のイメージ(画像は平成28年度版)

### ポイント

- 1 「指導用教科書(朱書き)編」は図版・本文解説・板書例など、授業で使えるネタが満載です。
- 2 「指導・評価計画編」は年間指導計画案や単元構成案、授業展開案などに評価規準を掲載しています。
- 3 「学習プリント」は毎時間ごとのワークシートで、授業をサポートします。
- 4 「タイムトラベルワークシート」は、タイムトラベル(本資料p.5-14)の読み解きを助けるワークシートです。
- 5 「Webサポート※」は図版データやテスト例などを収録する予定です。最新情報を随時アップできるように、従来のCD-ROMからWeb上でのサービスに切り替える予定です。

※Webサポートへの認証IDは、ご購入いただいた教師用指導書内にて提示する予定です。

指導者専用サイトの  
ご案内



### 指導者専用サイト(学校の先生方限定)【無料】

無料でご利用いただける登録制の「指導者専用サイト」を開設しています。ダウンロードして活用できるワークシートなど、さまざまなコンテンツを多数収録しています。情報は随時更新していきます。



### おもな収録コンテンツ

- やってみよう! 歴史でAL※  
※アクティブラーニングの略
- 「中学校 社会科のしおり」  
授業研究コーナー対応ワークシート
- プレミアム写真館(世界・日本)
- 白地図 など

### ポイント

小学校や中学校などの学校種の枠を超えて、社会科に関するあらゆる情報が入っています。



定期刊行冊子のご案内



### 定期刊行冊子(「中学校 社会科のしおり」)【無料】

中学校の先生方を対象にした、定期刊行冊子『中学校 社会科のしおり』を発行しています。地図帳活用のほか、社会科の学習における授業実践例や、学習指導要領などに関する社会科教育の情報を掲載しています。



地域版地図のご案内



### 地域版地図【有料】

教育委員会などからの委託を受けて作成する、オーダーメイドの地図です。新旧比較の地図や、林間学校の訪問先を入れた地図などに、カスタマイズできます。



例: 青森市での新旧地形図の比較

# 『社会科 中学生の歴史』の特色一覧

## ① 教育基本法との対応

下表のデータはこちら  
[Excelデータ]



教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史学習の基本的な約束事を学ぶ学習の冒頭は、キャラクターによるマンガ形式にすることで、学びへの意欲を喚起するようにした。(p.2-5)</li> <li>節のはじめに、大きなイラストから読み取りができる「タイムトラベル」を12か所設けた。これにより、生徒の興味・関心を引きつけ、「主体的な学び」を促せるようにした。(p.24-25,34-35,48-49,58-59,80-81,102-103,122-123,168-169,218-219,242-243,256-257)</li> <li>単元のはじめの「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」と「確認しよう」「説明しよう」、章や節の終わりの「振り返ろう」というように問いを構造化することで、単元のまとまりのなかで「深い学び」が実現できるように構成した。(全編)</li> <li>本文は、具体的に例示したり、社会的な事象の背景や因果関係までわかるようにしたりするなど丁寧でわかりやすくし、幅広い知識と教養を無理なく身に付けられるようにした。(全編)</li> <li>「章の学習を振り返ろう」の右ページでは、「歴史的な見方・考え方」を働かせた言語活動を行うことで、学んだ知識に基づいて「深い学び」が実現できるようにした。(p.57,93,147,209,255,285)</li> <li>「多面的・多角的に構想するー未来に向けて」では、第1部第1節と同様にマンガ形式を活用することで、歴史の学習を公民の学習へと橋渡ししていく導入とした。(p.286-287)</li> </ul>	おもに 特色1 p.5-14 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人物コラム」を49名分設け、日本の「近代化」や諸問題に取り組んだ人物の努力や工夫を描写することで、個人の創造性、自主・自律の精神、職業と勤労を重んじる態度を涵養できるようにした。</li> <li>「技能をみがく」コーナーでは、資料の見方などの情報収集や情報のまとめ方などの技能を身に付けることで、自主・自立の精神を涵養できるようにした。(p.5,7,8,9,10,37,38,52,145,189,231,249の計12か所)</li> <li>インクルーシブ教育に配慮し、誰でも読み取りやすい書体(ユニバーサルデザインフォント)や色調を導入することで、さまざまな特性をもつ生徒の価値を尊重して、その能力を伸ばせるようにした。(全編)</li> <li>二次元コードを随所に設置することで、授業以外においても生徒が自主的に活用できるようにした。(巻頭3など計26か所)</li> <li>教科書の用紙は、丈夫でありながら従来より単位面積あたり約5%軽量化したものを新たに開発し、持ち運びの際に生徒の負担にならないようにした。(全編)</li> </ul>	おもに 特色2 p.15-24 特色5 p.37-40 および p.43-46
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タイムトラベル」や文化史をはじめとした本文では、為政者の視点だけでなく、庶民の視点からも歴史を捉えられるように配慮することで、社会の形成に対する考えを深められるようにした。(全編)</li> <li>特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、異なる考えや対立する考えを併記した資料を扱うことで、多面的・多角的な考察を行えるようにした。これにより、さまざまな立場をふまえた社会の発展を考えていく態度を養えるよう配慮した。(p.144-145,188-189,230-231)</li> <li>コラム「未来に向けて」では人々が連携・協働して社会的な課題に取り組む姿を紹介し、特設ページ「多面的・多角的に構想する」では学習した内容をもとに社会的な課題の解決に向けた構想ができるようにした。これにより、生徒自身も社会の一員としての公共の精神をもち、主体的に社会の形成に参画する意識を高められるようにした。(p.203,286-287など)</li> </ul>	おもに 特色1 p.5-14 特色2 p.15-24 特色3 p.31-32 特色5 p.37-38

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代部分では世論の影響について、社会の公正さが拡大された面と、戦争に向かう動きが加速された面の双方を丁寧に記述することで、多面的・多角的な考察のもとで主体的に社会参画していく重要性を意識していけるようにした。(p.221,233,235,237)</li> <li>教科書中のキャラクターは、全体として男女の比率がほぼ同じになるよう留意した。(全編)</li> </ul>	
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コラム「未来に向けて 人権」などで、人権に関わる内容を扱い、さまざまな立場の異なる人々への理解を促すことで、生命や個人の価値を尊ぶ態度を養えるようにした。(p.83,91,163,184,215,265,281など)</li> <li>コラム「未来に向けて 環境」などで、自然環境や自然災害に対する当時の人々の考えや営みを紹介することで、自然との共生をめざす態度を養えるようにした。</li> <li>国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」を、歴史と未来を考える視点として紹介することで、自然を大切に、環境保全に寄与する意識を高められるようにした。(p.51,67,87,127,143,153,203,205,227,283,286-287)</li> </ul>	おもに 特色2 p.15-24
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地のさまざまな伝統行事や祭りを取り上げることで、日本の文化の多様性に気付け、日本の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(巻頭1)</li> <li>身近な地域の歴史を調べる学習では、地域の偉人を事例として取り上げることで、郷土愛を涵養できるようにした。(p.6-11)</li> <li>世界の歴史の本文記述と資料の充実、イラスト世界地図の新設により、外国の歴史や文化に興味・関心をもてるよう配慮したほか、歴史の転換点となった国際情勢が理解できるように配慮した。(p.14-23,42-47,94-101,156-159など)</li> <li>古代の文明や宗教についての本文を、わかりやすい記述や、偏見を与えない記述にするよう努めることで、他国の伝統文化を尊重する態度を養えるようにした。(p.16-23)</li> <li>各時代の文化史のページを充実させ、日本のさまざまな文化財や芸術をはじめ、当時の社会のなかで人々が形成した習慣や文化への理解を深めることで、日本の伝統に対する教養と愛着を育めるようにした。(p.42-47,52-55,66-69,88-91,108-111,132-133,138-141,204-207,224-227,274-277)</li> <li>コラム「地域史」や特設「歴史を探ろう」を随所に設け、中央の歴史だけでなく地域から歴史を見ることで、郷土への理解を深め、愛着を養えるようにした。(p.31,32-33,68,72-73,100,101,113,128,142-143,176-177,185,199,200-201,228-229,240-241など)</li> <li>古代から現代まで、琉球とアイヌの人々について一貫して記述することで、独自の歴史や文化への理解を深め、尊重する態度を育めるようにした。(p.78-79,118-119,120-121,182-183,250-251,269,281など)</li> <li>コラム「未来に向けて」の「交流」「平和」などでは、国家や地域の枠組みを超えて共生に向けて活動した先人たちの姿を紹介することで、多様な人々が共存する社会を築く上でヒントとなる知識を学べるようにした。(p.77,235など)</li> <li>「歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国」では、近隣諸国との歴史的経緯を丁寧に記述し、それに関する開国以来の日本政府の取り組みが国際法に則ったものであることを理解できるようにした。(p.266-267)</li> </ul>	おもに 特色2 p.15-24 特色4 p.33-36 および p.41-42

# 『社会科 中学生の歴史』の特色一覧

## ② 検討の観点から見た内容の特色

下表のデータはこちら  
[Excelデータ]



観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
教育基本法との対応	教育基本法との対応が十分にはかかれているか。	●教育基本法第1条の目標および教育基本法第2条第1～5号に示された内容について、 <b>社会科の目標や学習内容に沿った指導を効果的に行うことができる</b> ように構成されている。	おもに p.51-52
学習指導要領との対応	学習指導要領の目標・内容の趣旨に沿ったものであるか。	●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「もくじ」「この教科書の学習のしかた」では、 <b>単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつきやすい</b> ように工夫されている。(巻頭2-5) ●時代の特色が一望できる「タイムトラベル」、章・節ごとの単元を貫く問い、歴史の流れがわかる本文、単元の最後の「節の問いを振り返ろう」「章の学習を振り返ろう」のように、 <b>単元が構造化され、見直し・振り返りに基づいた単元の学習を確実に実践できるように工夫</b> されている。 ●学習指導要領で重視されている「歴史的な見方・考え方」を整理したページを設けて、歴史的分野の全体を通して鍛えていく見方・考え方が、わかりやすく説明されている。「タイムトラベル」や「章の学習を振り返ろう」では作業課題などで「歴史的な見方・考え方」を働かせることを促し、社会的現象を多面的・多角的に考える力が身に付けられる。(p.12,24-25,56-57など) ●知識が確実に習得できるよう丁寧な本文とし、本文の理解を促す資料を適宜設置している。また、基礎的な技能が身に付く「技能をみがく」コーナーが随所に盛り込まれ、 <b>公民としての資質・能力の基礎を育成</b> できるよう配慮されている。 ● <b>世界史の内容を増や</b> しており、世界と日本とのつながりがよりわかりやすくなるように整理・工夫されている。世界の古代文明の記述や世界地図が充実し、日本への影響や関連がわかるように工夫されている。	おもに 特色1 p.5-14 特色2 p.15-24 特色3 p.25-32 特色4 p.33-36 特色5 p.37-40
内容の配列・分量・程度	全体の分量は、年間標準時数から見て適切か。各単元の配当時数は適切か、系統性が考慮されているか。	●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1部に13時間、第2部第1章に19時間、第2章に15時間、第3章に21時間、第4章に26時間、第5章に19時間、第6章に13時間、教科書最後の「多面的・多角的に構想する 未来に向けて」に1時間が配当され、標準授業時間数135時間のうち126時間を活用する配当で、適切である。予備時間は8時間設けられている。	おもに 特色3 p.25-32 特色4 p.33-36
	内容の程度・範囲および文章は、生徒の発達段階から見て適切か。	●本文は、 <b>具体的に例示したり、歴史的現象の背景や因果関係までわかる</b> ようにしたりするなど、丁寧でわかりやすくなっている。また、平易な表現にするなど、中学生の発達段階が考慮されている。 ●本文、図版タイトル、全ての人名、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また、固有名詞・歴史用語には適宜ふりがなが付されており、用語や熟語が正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、生徒に親しみやすくなっている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、基本的な用語や概念の理解を優先的に学べるようになっている。	おもに 特色2 p.15-24 特色5 p.37-40
	学習を効果的かつ効率的に進めるための工夫がなされているか。	●各見開きは、本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理されている。学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ●本文と資料の関連する箇所には、 <b>図・写真や他ページへの適切な参照指示</b> が記載され、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように工夫されている。 ●各見開きでは、 <b>学習している時代がわかるように、時代ごとに色が統一</b> されている。紙面右端の時代を表す「年表インデックス」は、見直しに設置した「日本の歴史」および「世界の歴史」年表と対応しており、 <b>時系列を確認しながら学習</b> できるように工夫されている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する時間が省け、生徒が集中力を切らさずに授業を進められる。	おもに 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40
内容の扱い/学習活動	課題解決的な学習を行うための構成・工夫がなされているか。	●単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、節末の「第〇節の問いを振り返ろう」と章末の「章の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 <b>単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、課題解決的な学習</b> ができる構成になっている。 ●「章の学習を振り返ろう」では、「章の問い」に対して「歴史的な見方・考え方」を働かせて <b>考えるステップ</b> などにより、課題解決的な学習ができる工夫がなされている。(p.146-147など)	おもに 特色3 p.25-32

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い/学習活動	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための構成・工夫がなされているか。	●「タイムトラベル」では、大きなイラストや重要な場面を探し出す「次の場面を探してみよう!」などの工夫で、 <b>生徒の興味・関心を引き出し、主体的・対話的な学習活動にも使えるよう工夫</b> されている。 ●単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、節末の「第〇節の問いを振り返ろう」と章末の「章の学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 <b>単元のまとまりのなかで「深い学び」が実現</b> できる構成になっている。 ●本文のページの導入資料では、写真や資料に対して中学生に親しみやすいキャラクターが吹き出しで疑問を投げかけており、導入資料を用いて対話的な学習ができるよう工夫されている。 ●本文のページは左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置し、下部に本文を掲載する学習しやすいレイアウトで統一されている。また、相互にリンクが張られ、資料が活用しやすく工夫されている。 ●「タイムトラベル」は単元のはじめで <b>時代の特色を見直し、本文と関連付けて活用</b> し、「章の学習を振り返ろう」のイラストの眺め直しで <b>時代の振り返りが</b> できるよう工夫されている。 ●特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」では、資料をもとに生徒が <b>主体的に考え、対話的に活動</b> することを通して <b>深い学びにつながる構成</b> となっている。 ●「章の学習を振り返ろう」では、 <b>学習した知識をもとに、「歴史的な見方・考え方」を働かせながら主体的・対話的に「章の問い」を振り返る</b> ことで、「深い学び」につなげられるよう配慮されている。 ●第1部第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では調査テーマの決め方、調査手順のまとめ方、発表のしかたなどが具体的に示されており、生徒が主体的に学習をすすめるよう配慮されている。(p.6-11)	おもに 特色1 p.5-14 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40
	基礎的・基本的な「知識および技能」を確実に習得するための工夫がなされているか。	●見開き1時間の紙面が、 <b>興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧でわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」</b> の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識および技能が <b>確実に習得</b> できるようになっている。 ●節の冒頭にある「タイムトラベル」のイラストや資料から学習内容を見直し、「章の学習を振り返ろう」で学習内容を振り返る学習活動ができる。 ●本文は、全編にわたり歴史的現象の背景や影響がわかるように因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながらわかりやすく記述されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する図解や写真が多数掲載されている。 ●「技能をみがく」コーナーが12か所設けられ、「 <b>歴史的な見方・考え方</b> 」を働かせる上で <b>必要な基礎的な技能が習得</b> できるよう配慮されている。(p.5,7,8,9,10,37,38など) ●第1部第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では調査テーマの決め方、調査手順、必要な技能が系統だてて具体的に示されており、技能を習得しやすいように配慮されている。(p.6-11)	おもに 特色1 p.5-14 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40
	深い学びを実現させるための「思考力・判断力・表現力等」を育成するような配慮がなされているか。	●「タイムトラベル」は、異なる時代どうしを比較して考察できるようになっており、 <b>思考力を養</b> えるように配慮されている。 ●本文のページの見開き右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより <b>言語活動を毎時間くり返し</b> 行い、 <b>思考力・判断力・表現力を育成</b> できるよう配慮されている。 ●各章末には「章の学習を振り返ろう」が配置され、 <b>章の学習で得た知識を生かして、「歴史的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題</b> が設けられている。 ●学習内容と関連する歴史的現象を題材にした「 <b>多面的・多角的に考えてみよう</b> 」が3テーマ設けられ、一つのテーマについて資料をもとに生徒が自分なりに思考・判断し、表現できるように配慮されている。	おもに 特色1 p.5-14 特色3 p.25-32
	「思考力・判断力・表現力等」の育成につながる社会的な見方や考え方を働かせるための配慮がなされているか。	●学習指導要領で重視されている「歴史的な見方・考え方」を整理したページを設けて、歴史的分野の全体を通して働かせる見方・考え方が、わかりやすく説明されている。 ●「タイムトラベル」では「 <b>前の時代と比べてみよう</b> 」が設けられ、「 <b>歴史的な見方・考え方</b> 」を働かせながら <b>時代の特色を</b> 考えることができる。(p.122-123など) ●「章の学習を振り返ろう」では、 <b>異なる二つの時代の「タイムトラベル」の眺め直しや話し合いを促す工夫</b> で、「歴史的な見方・考え方」を働かせられるように工夫されている。(p.146-147など) ●巻末ページ右端には教科書で学んだ内容をまとめた世界の歴史年表が設置され、巻頭ページや各ページ右端の日本の歴史年表と比べることで「 <b>歴史的な見方・考え方</b> 」を働かせられるように工夫されている。	おもに 特色1 p.5-14 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40

特色一覧

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	生徒の興味・関心を喚起させ、「主体的に学習に取り組む態度」を育成できるような配慮がなされているか。	●幅広い判型(AB判)で、写真や地図、年表などが大きく見やすく提示され、歴史への興味・関心が喚起されるように工夫している。 ●時代の冒頭に、時代の様子が生き生きと描かれたイラスト「タイムトラベル」が設けられ、時代への興味・関心を高めてから学習に入ることができるようになっている。「次の場面を探してみよう」で重要な歴史事象を読み取り、本文の学習課題と関連付けられるなど、学習に意欲的に取り組めるように配慮されている。また「さくいんグリッド」などの工夫がなされ、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。 ●生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、発問や気付き、学習の手がかりや示唆などを提示することで、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。 ●各見開きの左上に、1時間ごとの導入となる資料が設けられている。ワイドな写真から時代のイメージをつかんだり、驚きや疑問をもったりして、学習への意欲を引き出せるようになっている。	おもに 特色1 p.5-14 特色5 p.37-40
	小学校・高等学校との接続や関連に配慮がなされているか。	●巻頭ページの右端には小学校で学習するおもな出来事を中心に構成した日本の歴史年表が設置され、各見開きの紙面の右端につけたインデックスと関連させることで、中学校での歴史学習にスムーズに入れるよう工夫されている。 ●第1部「歴史のとらえ方と調べ方」には、小学校の学習指導要領で示されたおもな人物や出来事を振り返るイラストや年表が設けてあり、中学校での歴史学習に向けた橋渡しとなるように配慮されている。 ●各時代の冒頭の「タイムトラベル」ページ右上に「小学校で学んだ主な出来事」の年表が設置され、小学校で学んだ人物と出来事を確認することで、これから学習する内容にスムーズに入れるように工夫されている。 ●本文のページ下段には「小学校・地理・公民との関連」コーナーが設けられ、小学校で学習した内容を確認できるよう、関連用語が提示されている。(p.132など) ●小学校の学習指導要領で示された42人の人物が全員取り上げられている。	おもに 特色1 p.5-14 特色2 p.15-24 特色5 p.37-40
	他分野との接続や関連に配慮がなされているか。	●本文ページ下段には「小学校・地理・公民との関連」コーナーが設けられ、地理的分野・公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。(p.132など) ●積極的に地図が取り入れられており、地理的分野との接続が考慮されている。 ●「環境」「交流」「人権」「平和」といった、現在および将来の社会が直面する課題の歴史的背景を取り上げたコラム「未来に向けて」が43テーマ設置され、公民的分野への接続が考慮されている。	おもに 特色2 p.15-24 特色5 p.37-40
	我が国の伝統・文化、宗教に対する理解を深められるような配慮がなされているか。	●文化史のページでは、絵画・建築物・仏像などの資料を大きく掲載したり、当時の文化や文化を生み出した社会的背景について丁寧に記述したりするなどの工夫を行い、日本の伝統・文化、宗教に対する理解を深められるように配慮されている。 ●琉球とアイヌの人々についての記述が充実し、多文化が尊重される社会を意識できるように配慮されている。(p.29,78-79,118-119,120-121など)	おもに 特色2 p.15-24
	我が国の領土・領域を正しく理解できるような配慮がなされているか。	●特設ページ「歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国」において、日本の領土画定と領有をめぐる諸課題について北方領土、竹島、尖閣諸島のそれぞれの歴史的背景がわかるようにまとめられている。(p.266-267)	おもに p.41-42
	補充的な学習や発展的な学習に対して、そのような工夫・配慮がなされているか。	●具体例を交えた本文やそれを補足する図解などによって、基礎的・基本的な学習内容が定着し、補充的な学習を行いやすくなっている。 ●3か所に設置された「多面的・多角的に考えてみよう」では、協働的な学びが実践できる工夫により、学習を一層深められるようになっている。 ●第1部第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では、協働学習形態の提示が行われている。	おもに 特色3 p.25-32 特色5 p.37-40
	生徒が家庭でも主体的に自学自習できるような配慮がなされているか。	●教科書の冒頭には「この教科書の学習のしかた」「タイムトラベルの学習のしかた」が掲載され、自学自習がしやすいよう配慮されている。(巻頭4-巻頭5,p.13) ●二次元コードで学習内容に関連する動画や「章の学習を振り返ろう」の解答などが閲覧でき、生徒が自学自習しやすいように工夫されている。(巻頭3など計26か所)	おもに p.43-44
今日的な課題への対応	環境教育に関して、どのような配慮がなされているか。	●コラム「未来に向けて 環境」が10か所設置され、資源の保護や環境保全に取り組んだ人々の姿が紹介されている。(p.51「自然を畏れ敬った古代の人々」、p.143「江戸のごみを利用した農業」など)	おもに 特色2 p.15-24
	防災に関して、どのような配慮がなされているか。	●コラム「未来に向けて 環境」が10か所設置され、自然災害に立ち向かった人々の姿が紹介されている。(p.87「自然を生かした信玄堤」、p.283「現代社会の見直しを迫った東日本大震災」など)	おもに 特色2 p.15-24

観点	観点の内容	本書の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での 特色と掲載ページ
今日的な課題への対応	人権・平和教育の推進のために、どのような配慮がなされているか。	●コラム「未来に向けて 人権」が17か所設置され、人権に関する諸課題の経緯について紹介されている。(p.83「中世の老人と子ども、女性」、p.184「自由は土佐の山間より」など) ●コラム「未来に向けて 平和」が8か所設置され、人々が平和に向けてどのように取り組んできたのかが紹介されている。(p.235「芸術に込めた反戦の意志」、p.245「ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人」)	おもに 特色2 p.15-24
	グローバル化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第6章第3節「これからの日本と世界」では、グローバル化が進む世界と日本について、グローバル化の歴史的背景や課題を学習できるような本文記述がなされている。(p.278-283)	おもに 特色4 p.33-36
	少子高齢化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第6章第2節「4日本の社会と国際関係の変化」では、少子高齢化の社会的背景や影響について、現代社会に続く課題として考えられるように記述されている。(p.273)	おもに 特色2 p.15-24
	情報化に関して、どのような配慮がなされているか。	●第2部第6章第3節「3国際社会におけるこれからの日本」では、社会の新たな潮流について、情報通信技術の発展や人工知能(AI)の発達に社会に与える影響や今後の課題を考えられるように記述されている。(p.282)	
表記・表現	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関して、どのような配慮がなされているか。	●先人たちの取り組みを未来につなげるためのコラム「未来に向けて」が「環境」「交流」「人権」「平和」の観点で43テーマ設置され、「持続可能な開発目標」(SDGs)に関連する項目にはSDGsマークが付けられている。(p.127「森林伐採と植林」など) ●SDGsについて、社会的な課題として主体的・対話的に考えられる工夫がなされている。(p.286)	おもに 特色2 p.15-24
	統計、挿絵、写真、図表等は鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連がはかられるなど学習効果を高めるための工夫がなされているか。	●本文の記述を補足する写真や図表などが大判で豊富に掲載され、学習を深められるようになっている。 ●学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「タイムトラベル」への参照記号などのリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。 ●資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が随所に設置され、資料の活用を促している。 ●さまざまな時代や場面で日本の歴史に足跡を残した人物を紹介する「人物コラム」のコーナーが側注欄に49名分設けられ、歴史により親しみが持てるように工夫されている。また、巻末には、教科書で扱っている人物を探せる「人物さくいん」が設けられ、資料の活用を促している。(p.288-289) ●歴史的分野の学習に必要な用語を解説した「解説」のコーナーが側注欄に54項目設けられている。文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられて視覚的に理解が深まるように工夫されている。(p.148「近代の政治体制」など)	おもに 特色1 p.5-14 特色2 p.15-24 特色5 p.37-40
	特別支援教育やインクルーシブ教育に対して適切な配慮がなされているか。	●本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ●見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様を使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。 ●色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、色以外での区別ができるように配慮されている。 ●図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすくなっている。 ●各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで整理されている。 ●見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に設置され、一目で学習している時代がわかるように配慮されている。 ●反射を抑えた紙が用いられ、読み取りやすくなるように配慮されている。	おもに 特色5 p.37-40 および p.45-46
印刷・装丁等	紙質や印刷の鮮明さなど、生徒の利便性への配慮がなされているか。	●写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。 ●地図などの図版は、記号や注記文字が明瞭で読み取りやすいように配慮されている。 ●紙は、反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なものが使用されている。 ●生徒が家庭に持ち帰ることを想定し、軽い紙が用いられている(現行教科書比単位面積あたり約5%の軽量化)。	おもに p.45-46
	造本は3年間の使用に耐えらるような配慮がなされているか。	●表紙の材料は引っぱり、折りに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩耗・汚れを防ぐためにポリプロピレンシートが貼られており、長期間の使用に耐えられる。 ●製本は、針金綴じよりも強度があり、かつ重量の軽いPUR製本が用いられている。これにより本が大きく開くため、掲載情報量が増えるとともに、机の上に開いたまま置くことができる。	おもに p.45-46
サポート体制	用紙・インキ等は、環境への配慮がなされているか。	●古紙および環境に優しいフレッシュパルプが用いられている。インキには国産米の米ぬかから作られるライスインキが使用され、環境保全と地産地消への配慮がなされている。 ●針金を使わないPUR製本により、資源を節約すると同時に、リサイクルしやすくなっている。	おもに p.45-46
	デジタル教科書・教材や教師用指導書などのサポート体制はどのようになっているか。	●学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教材、指導者用デジタル教科書(教材)、教師用指導書、拡大教科書が令和3年4月までに発刊される予定である。	おもに p.47-50



# 『社会科 中学生の歴史』の全体構成(もくじ)

## 本資料での掲載ページ

第1部	歴史のとらえ方と調べ方		—
第1節	歴史の流れと時代区分	2-5	→ 39
第2節	歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた	6-11	—
第2部	歴史の大きな流れと時代の移り変わり		—
第1章	古代国家の成立と東アジア		—
第1節	人類の登場から文明の発生へ	14-23	—
第2節	▶タイムトラベル①②	24-25	→ 11,12,13
	東アジアの中の倭(日本)	26-33	→ 19,21
	▶歴史を探ろう 古墳から分かる当時の様子	32-33	—
第3節	▶タイムトラベル③ 中国にならった国家づくり	34-35	→ 13
第4節	▶タイムトラベル④	48-49	→ 3,14,41
	展開する天皇・貴族の政治	50-55	→ 40
章の学習を振り返ろう		56-57	—
第2章	武家政権の成長と東アジア		—
第1節	▶タイムトラベル⑤	58-59	→ 14
	武士の世の始まり	60-69	→ 37
第2節	武家政権の内と外	70-79	→ 21
	▶歴史を探ろう 東アジアに開かれた窓口 博多	72-73	—
第3節	▶タイムトラベル⑥ 人々の結び付きが強まる社会	80-81	→ 5-8,13
章の学習を振り返ろう		92-93	—
第3章	武家政権の展開と世界の動き		—
第1節	大航海によって結びつく世界	94-101	→ 25-26,41
第2節	▶タイムトラベル⑦	102-103	→ 13
	戦乱から全国統一へ	104-111	—
第3節	武士による全国支配の完成	112-121	→ 22
第4節	▶歴史を探ろう 琉球とアイヌの人々の暮らし	120-121	—
	▶タイムトラベル⑧	122-123	→ 9-10,14
	天下泰平の世の中	124-133	→ 10,26-28
第5節	▶歴史を探ろう 昆布ロードと北前船	130-131	—
	社会の変化と幕府の対策	134-141	→ 10,15-18
	▶歴史を探ろう 世界有数の百万都市 江戸	142-143	—
第5節	▶多面的・多角的に考えてみよう 赤穂事件を考察する	144-145	→ 31-32
	章の学習を振り返ろう	146-147	→ 29-30,41

第4章	近代国家の歩みと国際社会		—
第1節	欧米諸国における「近代化」	148-159	→ 35-36,37
第2節	開国と幕府の終わり	160-167	→ 45
第3節	▶タイムトラベル⑨	168-169	→ 14
	明治政府による「近代化」の始まり	170-175	→ 23,36
第4節	▶歴史を探ろう 世界に開かれた港 横浜	176-177	→ 45
	近代国家への歩み	178-187	→ 40
第4節	▶歴史を探ろう 移住と開拓が進む北海道	182-183	—
	▶多面的・多角的に考えてみよう 「三酔人経綸問答」を考察する	188-189	—
第5節	帝国主義と日本	190-197	—
第6節	アジアの強国の光と影	198-207	→ 19
	▶歴史を探ろう 「絹の道」と日本の製糸業	200-201	→ 19
章の学習を振り返ろう		208-209	—
第5章	二度の世界大戦と日本		—
第1節	第一次世界大戦と民族独立の動き	210-217	→ 40
第2節	▶タイムトラベル⑩	218-219	→ 13
	高まるデモクラシーの意識	220-227	→ 37
第2節	▶歴史を探ろう 発展する産業都市 大阪・神戸	228-229	—
	▶多面的・多角的に考えてみよう 「母性保護論争」を考察する	230-231	→ 23
第3節	戦争に向かう世論	232-239	—
	▶歴史を探ろう 長野県から見る満州移民	240-241	→ 20
第4節	▶タイムトラベル⑪	242-243	→ 13
	第二次世界大戦の惨禍	244-253	→ 23,45
第4節	▶歴史を探ろう 戦場となった沖縄	250-251	—
	章の学習を振り返ろう	254-255	—
第6章	現在に続く日本と世界		—
第1節	▶タイムトラベル⑫	256-257	→ 1-2,14
	敗戦から立ち直る日本	258-263	—
第2節	世界の多極化と日本の成長	264-277	—
	▶歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国	266-267	—
第3節	これからの日本と世界	278-283	→ 22,24
章の学習を振り返ろう		284-285	—
▶多面的・多角的に構想する—未来に向けて		286-287	—

# 著作者を代表して

東京大学 名誉教授 黒田 日出男

## 多様な視点やさまざまな立場を大切にした教科書

日本の歴史は、為政者のみならず、庶民や差別を受けた人々、子どもや女性や老人など、さまざまな立場や境遇にある人々が関わり合うなかで創られてきました。また、政権の置かれた「中央」だけでなく、「地域」どうしが交流したり、衝突したりするなかで、そして「世界」とさまざまな接触を繰り返すことによって、歩を進めてきました。ですから本書では、さまざまな立場と視点から歴史を「見る」ことを重視しています。たとえば各時代の冒頭には、当時の社会の様子を描いたイラスト(タイムトラベル)を置いて、その社会を構成している多様な人々の営みをイメージ豊かに捉えられるようにしています。また、地域史や世界の歴史を要所要所に記述するように努めています。

## 情報化の時代にふさわしい教科書

現代は、情報があふれている時代です。情報は生活を便利にする一方、あいまいな情報や誤った情報も飛び交っています。そうした情報社会を生きる上で大切なことは、情報を客観的に分析して、その良し悪しを判断する能力の育成であることは言うまでもありません。

そこで本書の叙述では、歴史上の出来事の因果関係をきちんと記述し、出来事どうしの相互関連を理解できるように努めました。また、豊富な資料(史料)を適切な個所に示し、歴史の転換点や出来事の推移を読み解けるように工夫を凝らしています。すなわち、因果関係を明快に記述した本文と豊富な資料によって、出来事の的確な情報を引き出し、自分で考えて意見をまとめること、そして他の人の見解と比べることによって、情報を客観的に分析する能力を身に付けられると考えています。

本書では、そうした歴史学習にふさわしいテキストにしようと真摯にめざしました。たっぷりとビジュアルでありつつ、かつ歴史の因果関係をしっかりと捉えることができる教科書に仕上げられたと自負しています。本書が中学生の皆さんにとって、歴史の航路を読み解く「海図」と「羅針盤」になることができれば、監修者としては望外の喜びです。

帝国書院の教科書づくりへの想い  
【動画 2分34秒】



## 本書の著作関係者

※所属・肩書きは令和2(2020)年3月時点のもの

### 監修者

- 黒田 日出男 東京大学名誉教授
- 小和田哲男 静岡大学名誉教授
- 成田 龍一 日本女子大学教授
- 梅津 正美 鳴門教育大学教授
- 木村 直樹 長崎大学教授
- 黒田 智 金沢大学教授
- 小宮 京 青山学院大学准教授
- 土屋 武志 愛知教育大学教授
- 奈良岡聰智 京都大学教授
- 仁藤 敦史 国立歴史民俗博物館教授
- 真栄平房昭 琉球大学教授

- 片山 博子 鳥根県公立中学校元校長
- 関谷 文宏 筑波大学附属中学校主幹教諭
- 相磯 達夫 神奈川県横浜市立中川中学校教諭

### 編集委員

- 江口 勇治 筑波大学名誉教授
- 鴛原 進 愛媛大学教授
- 米田 豊 兵庫教育大学教授
- 志村 喬 上越教育大学教授
- 永田 忠道 広島大学准教授
- 細谷 美明 早稲田大学客員教授
- 松岡 尚敏 宮城教育大学教授
- 吉田 剛 宮城教育大学教授
- 吉村功太郎 宮崎大学教授

### 編集協力者

- 井寄 芳春 大阪府大阪市立横堤中学校校長
- 太田 和幸 北海道札幌市立羊丘中学校教頭
- 佐藤 邦宏 宮城県公立中学校元校長
- 林原 和彦 鳥取県伯耆町立溝口中学校教諭
- 平山 裕人 コロボックル学びの家
- 山内 敏男 兵庫教育大学准教授
- 山中 誠志 岡山県岡山市立竜操中学校教諭

### 特別支援教育に関する監修・校閲者

- 柏倉 秀克 桜花学園大学教授
- 丹治 達義 筑波大学附属視覚特別支援学校教諭